

岩手県立花巻清風支援学校

令和 6 年度

全校研究の概要と まとめ

(2 年次研の 1 年次め)

1 前年度までの取組

(1) 令和4、5年度(2年次研究) 研究主題について

研究主題

一人ひとりが力を発揮し、主体的に活動する児童生徒の育成

～「育成を目指す資質・能力」の三つの柱に沿った授業実践をととして～

(2) 対象の授業、主な取組内容

1 年次 対象授業：**教科**

学習指導要領の読み込み、目標設定や評価規準の設定、授業実践

2 年次 対象授業：**各教科等を合わせた指導**

学習指導要領の読み込み、目標設定や評価規準の設定、授業実践、
授業改善の経過を記録

(3) 2年次目の成果と課題ー 1

<成果>

○「各教科等を合わせた指導」について、**育成を目指す資質・能力について教科とのつながりを具体的に意識し、授業づくりに生かすことができた。**

○**研究グループごとに研究授業を実施することで、児童生徒の実態をより深く理解したり、よりよい支援・指導方法について検討したりし、次の学習につなげることができた。**

→児童生徒の実態把握と指導の充実、**PDCAサイクルを意識した取組**ができた。

○「各教科等を合わせた指導」の指導形態は、季節行事や学校行事と結びつけた単元設定が行われることが多いため、児童生徒が見通しをもって取り組みやすかった。そのことが、**児童生徒の主体的に学ぶ姿につながったり、その学習場面以外で学んだことを話題にする姿**が多く見られたりした。

(3) 2年次目の成果と課題－2

<課題>

○**学習指導要領の内容を引き続き丁寧に確認し、理解しながら実践に生かしていくことが必要。**

○**知的障がいのある児童生徒の特性の理解を深め、各教科等を合わせた指導の指導形態を生かしながら確かな力を身に付けることのできる取組をさらに進めていく必要がある。**

(4) 昨年度 全校研究会で確認した方向性

ア 児童生徒に身に付けさせたい力を明らかにした授業づくり

(各教科等を合わせた指導の中で、どの教科についてどのような目標で取り組むのか)

→R6学校経営概要 経営方針(1) 教育的ニーズを把握した児童生徒主体の授業づくりの充実

重点事項(1) ①「個別の指導計画」の実施状況について評価・改善を行い、指導の充実を図る。

イ 児童生徒が学んだり身に付けたりしたことが、他の学習や生活場面に つながる授業実践 (確かな生きる力へ)

→R6学校経営概要 経営方針(2) **自立と社会参加に向けた教育の充実**

重点事項(2) ①自立と社会参加に向け、キャリア発達を踏まえた指導の充実を図る。

2 今年度からの全校研究（R 6、 7 年度）

（1）研究の目的

ア 学校教育目標、経営方針に基づいたテーマ設定のもと、授業づくりや授業改善をとおし、**児童生徒の育成を目指す。**
（学校教育目標や学部教育目標の達成を目指す）

イ 児童生徒の目指す資質・能力を育むための**授業づくり**や**授業改善**をとおして、**教職員の資質向上**を目指す。
（主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善）

(2) 令和6・7年度 研究主題

児童生徒一人ひとりの自立と社会参加を目指して

身に付けたい力を明らかにした各教科等を合わせた指導の充実

- ・ **学習指導要領のさらなる理解**

⇒ 身に付けたい力を育むために学習指導要領の理解を深め、授業づくりに生かす

- ・ **目指す姿の具体化と共有**

⇒ 児童生徒の具体的な目指す姿を学部ごとに共有

- ・ **児童生徒一人ひとりの教育的ニーズを把握→「身に付けたい力」へ**

⇒ 実態の把握(障がいの状態や特性、心身の発達段階)

- ・ **授業づくりと授業改善（各教科等を合わせた指導において）**

⇒ 実態把握と学習指導要領に基づいた単元目標(各教科の目標)、個人の目標、指導内容の検討、授業実践、授業研究会の実施、成果や課題を次の授業や単元へ生かす（児童生徒が学んだり身に付けたりしたことが、他の学習や生活場面につながるような授業実践を意識する）

遠野分教室中学部、寄宿舍の研究

児童生徒一人ひとりの自立と社会参加を目指して

テーマを共有

遠野分教室中学部

…併設校支援学級との交流の在り方、生徒の経験拡大を図る

寄宿舍

…テーマに沿い、研究内容を検討

(3) 研究仮設

- ★学習指導要領のさらなる理解を深め、
- ★(学部教育目標に基づく)児童生徒の目指す姿のイメージを共有、
- ★実態、学習指導要領に基づいた各教科等を合わせた指導の単元目標
(各教科の目標)、個人の目標、指導内容の検討をし、
- ★授業実践と授業改善をすることで、
- ★児童生徒一人ひとりの身に付けたい力が育まれ、自立と社会参加を
目指し、
- ★学校教育目標及び学部教育目標の達成につなげることができるので
はないか。

(4) 研究内容与方法-1

ア 研究の期間と主な内容

○ 2 年次研究

- ・ 1 年次…各教科等を合わせた指導での授業づくり、授業改善に取り組む
- ・ 2 年次…1 年次研の成果と課題を生かし、授業の深化、授業のさらなる充実を図る

(4) 研究内容与方法-2

イ 全校研究の内容、方法について

全校研究

- ・ 第1回全校研究会（5月…内容の確認）
- ・ 高教研講演会（8月…各教科等を合わせた指導について）
- ・ 全校研究授業、授業研究会(12月…小学部授業提供)
- ・ 第2回全校研究会（3月…研究のまとめ）

(4) 研究内容与方法-3

ウ 学部研究の内容、方法について-1

- a 学習指導要領、各教科等を合わせた指導、授業づくり
授業改善に関する基礎的知識の確認(学部研学習会)

- ・「各教科を合わせて指導を行う場合」について～学習指導要領解説から
- ・授業改善の視点について

- b 学部教育目標等をもとに、目指す姿を具体的に考える
目指す姿を職員間で共有する

- c 学習グループ等を検討
年間指導計画の中から、対象とする「**各教科を合わせた指導**」
の単元を決定する

(4) 研究内容与方法-4

ウ 学部研究の内容、方法について-2

d 単元、授業づくり、研究授業の実施

- ・ 児童生徒の実態の把握と共有
- ・ 各教科を合わせた指導の中で、どの教科のどの内容を扱うか
⇒ 学習指導要領の理解を深める
- ・ 単元目標と個人目標の設定
- ・ 指導、支援方法の検討（他の授業や生活場面につながることも意識する）
- ・ 研究授業の実施、授業の**動画を撮影、保存**
 - ＊ 学部、他学部へも研究授業実施を周知→授業を見合う機会を設ける

(4) 研究内容与方法-5

ウ 学部研究の内容、方法について-3

e 授業研究会の実施とまとめ、次の授業や単元へ生かす

- ・撮影した動画を視聴しながら、評価をする
→記憶に頼らない、客観的な評価へ
- ・授業研究会で出された成果や課題を次の授業や単元で生かす
→PDCA
 - P…単元、授業づくり
 - D…学習指導要領に基づいた・個に応じた授業の実践
 - C…児童生徒の学習状況評価、単元や授業の評価
 - A…授業の改善、各指導計画の改善
- ・授業や単元で学習したことが、他の授業や生活場面で生かされている場合も評価として記録

(4) 研究内容与方法-6

ウ 学部研究内容、方法について-4

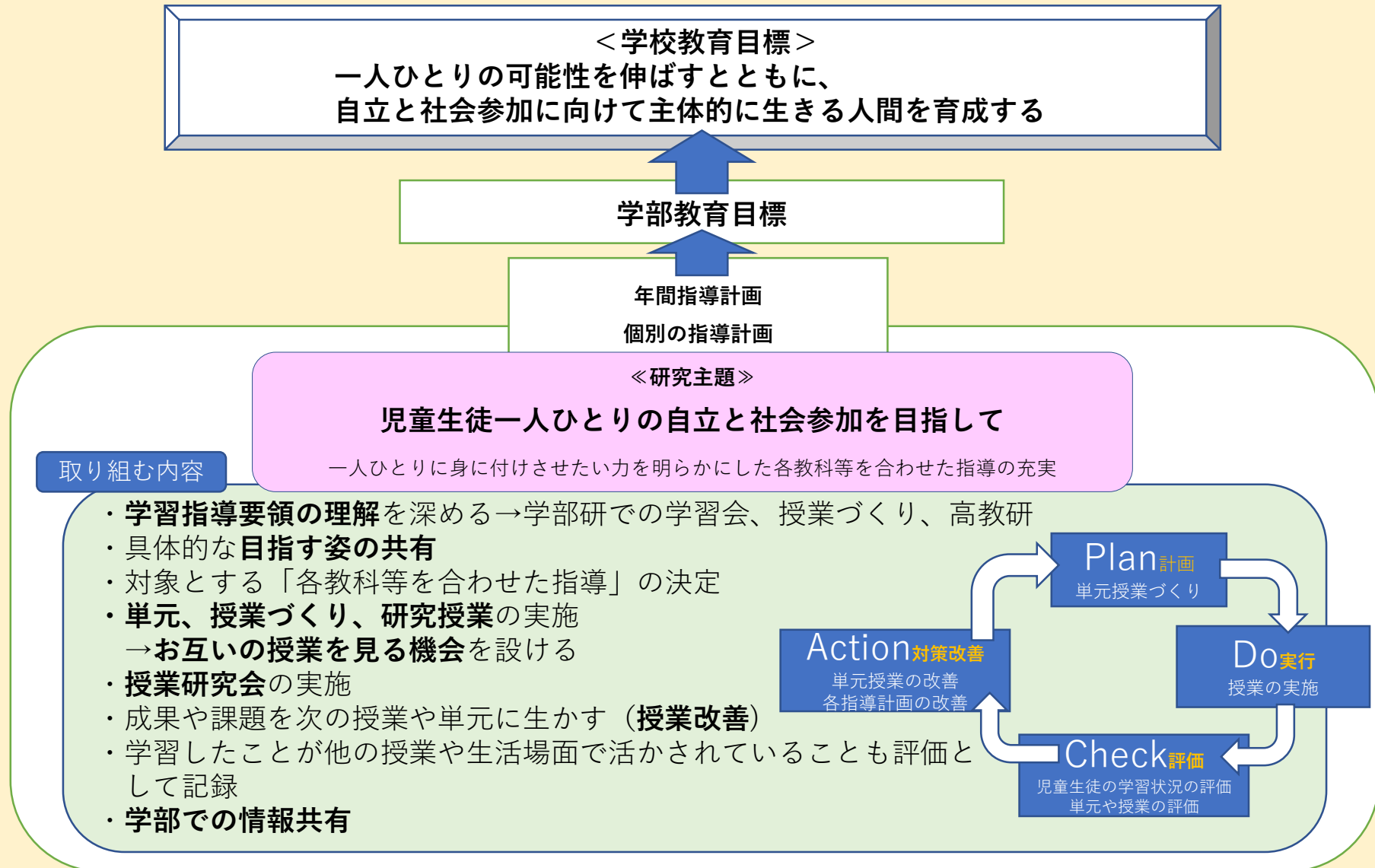
f 学部での情報共有

- ・学部ごとに、互いの取組状況を共有する機会を設け、自分たちの授業改善に役立てる
- ・小学部は全校研究授業及び授業研究会での授業提供学部であるため、対象学習グループの決定や、指導案作成にあたっては、学部全体で検討する時間を設ける
- ・年末をめどに学部研究のまとめをし、学部全体で共有、次年度のカリキュラムマネジメントに生かす

(5) 推進計画

月	日	研究会・研修会	主な内容
5	14(火)	第1回全校研究会	研究の目的、研究内容の確認
6	11(火)	研究日①	学部研究会①学習会（基礎的知識確認）、目指す姿の共有
7	9(火)	研究日②	学部研究会②学習グループ、単元の検討、単元授業づくり
8	5(月)	高教研講演会	講師:名古屋恒彦先生 内容:各教科等を合わせた指導について
	21(水)	研究日③	学部研究会③単元授業づくり、研究授業、授業研究会
10	8(火)	研究日④	学部研究会④単元授業づくり、研究授業、授業研究会
11	19(火)	研究日⑤	学部研究会⑤単元授業づくり、研究授業、授業研究会
12	6(金)	全校授業研究会 兼 ステップアップⅡ 研修講座『公開授業研究会』	授業提供：小学部 グループ研究会
	24(火)	研修報告会、研究日⑥	研修内容の共有、学部研究会⑥学部研究のまとめに向けて
1	22(水)	研究日⑦	学部研究会⑦学部研究のまとめ
3	4(火)	第2回全校研究会(授業実践報告会)	全校研究と学部研究のまとめの共有

(6) 構想図



(7) 資料 (HPに掲載なし)

- ・ 令和 6 年度経営計画 第 1 学校経営概要
- ・ 花巻清風支援学校キャリア教育全体計画(令和 3 年度改定版)
- ・ 学習指導案様式 (各教科等を合わせた指導版)
- ・ 単元づくりシート(各教科等を合わせた指導版)
- ・ 令和 5 年度学習指導案集

3 取組結果

- (1) 学習会・・・第1回学部研究会
- (2) 高教研講演会
- (3) 全校研究授業及び授業研究会
- (4) 各学部の実践報告

(1) 学習会

第1回学部研究会において

- 内容
- ア 各教科等を合わせた指導について
・・・学習指導要領から
 - イ 授業づくり、授業改善の視点
・・・文部科学省の資料から
「主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善」



(2) 高教研講演会(8月5日実施)

講師 **名古屋 恒彦 先生** (全日本特別支援教育研究連盟理事長)

演題 **子ども主体の学びを実現するための授業づくり**
～各教科等を合わせた指導を通して～



(3) 全校研究授業及び授業研究会－1

ア 研究授業

日時 令和6年11月20日(水)

場所 プレイルーム

内容 小学部 1・2年 遊びの指導

「げんきランドであそぼう（ボール遊び）」

＜扱った教科と大まかな内容＞

生活科 … 遊び、人との関わり

国語科 … 聞くこと・話すこと など

算数科 … 数量の基礎、測定

体育科 … ボール遊び

* 資料:学習指導案

* 本時を含め、同小単元も参観期間にしたことで、参観者が増えた。



(3) 全校研究授業及び授業研究会 - 2

イ 授業研究会 - 1

日時 令和 6 年12月 5 日(金)14:00～16:00

内容 全体会、グループ協議（学部縦割り）と発表、助言・講評



(3) 全校研究授業及び授業研究会 - 3

イ 授業研究会 - 2

<全体会>

授業者から（一部抜粋）

- ・毎時間後、職員で話し合い改善を図った。
- ・児童同士、職員との関りながら遊ぶことができた。
- ・一方で、協力することで遊ぶことができる活動を用意すればよかった。
- ・ボールの量「いっぱい」は、自分から表現する児童、気付いている児童、難しい児童それぞれであった。
- ・前回の単元からの課題である「片付け」は、児童それぞれの方法で取り組むことができた。

(3) 全校研究授業及び授業研究会 - 4

イ 授業研究会 - 3

<グループ協議発表内容（一部抜粋）>

- ・ 児童一人一人が遊ぶことができる教材の工夫、量などの工夫があった。
- ・ 児童同士が必然的に関わることができるように、ボールの受け渡し、物の貸し借り、二人組で各コーナーを回るなどがあったのでは。
- ・ 片付けが時間制であったが、全てのカラーボールがなくなるまで行ってもよかったのでは。
- ・ ルール学習は、「ルールを守ると楽しい」という経験の積み重ねとなるのがよい。

(3) 全校研究授業及び授業研究会 - 5

イ 授業研究会 - 4

<助言・講評（一部抜粋）>

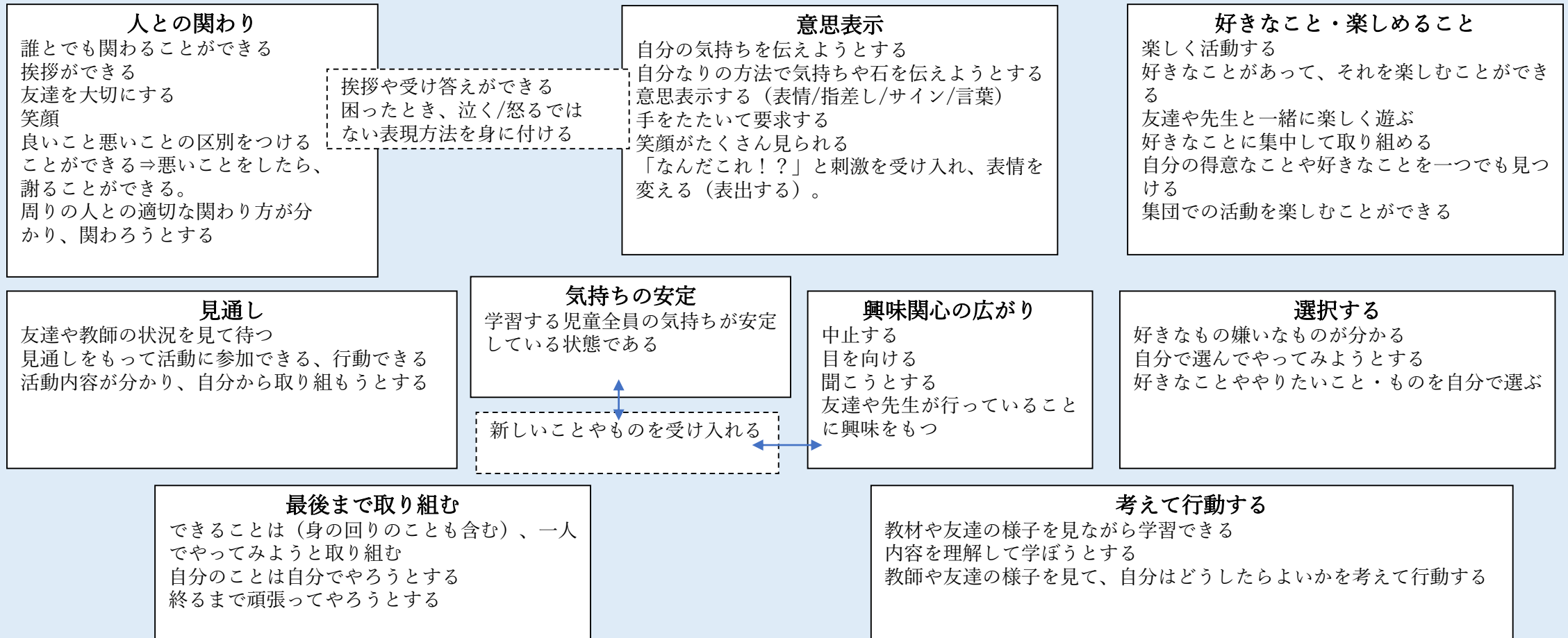
- ・ 授業者も参加者も自身の授業に生かすことができる良い機会になったと感じる。
- ・ 遊びに徹しながら各教科等の内容に十分に取り組むために、例えば、単元期間の日生の時間に一部取り入れて遊んでみる。そうすることで個々に応じた算数のねらいに迫ることができるのではないか。
- ・ 動きは少なくても、じっと見ていることがその児童の遊びということもある。
- ・ 見ていないから「興味がない」というふうに捉えてよいのだろうか。
- ・ 今回の学習活動が「明日への期待」「学校への楽しみ」になっており、その中で関わり方やルールを学習することができる良い機会となっていたのではないか。

(4) 各学部の実践報告

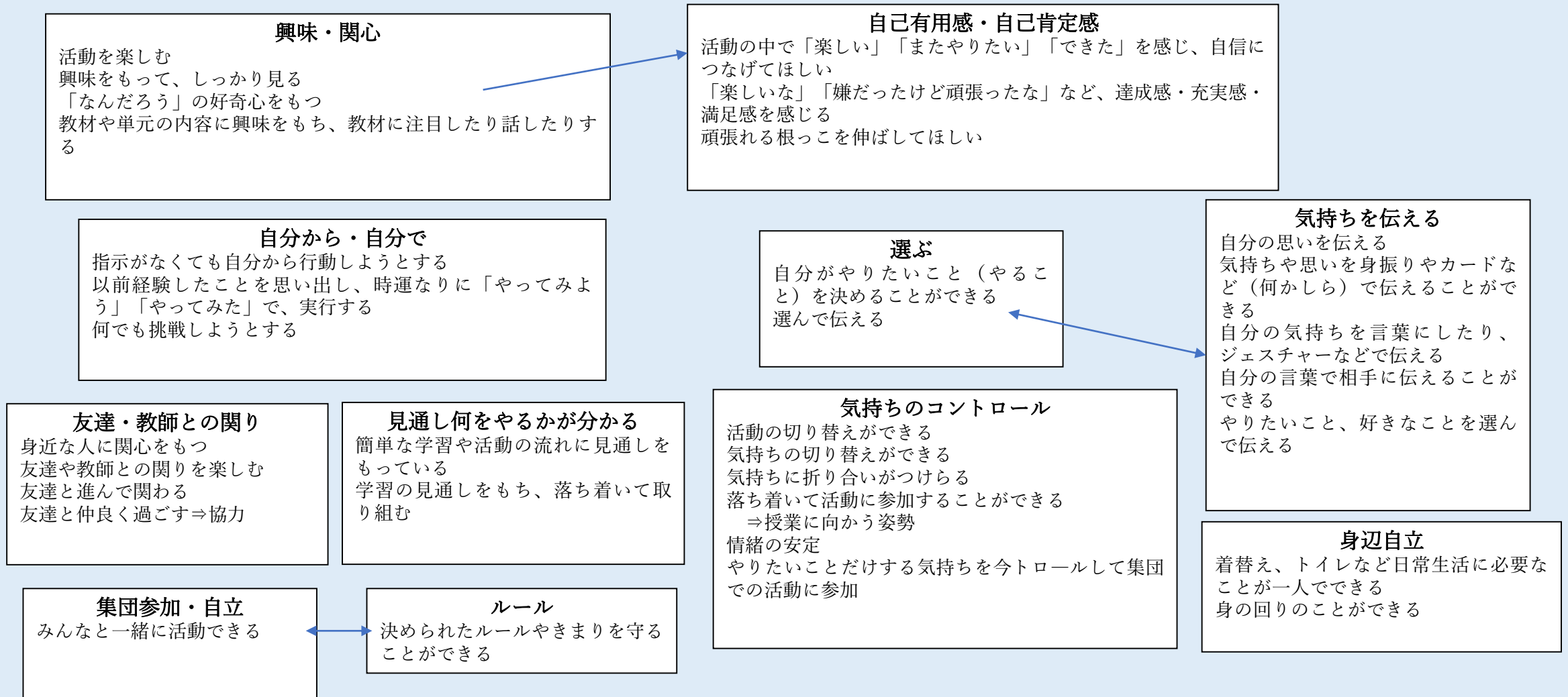
- ・ 小学部 … 遊びの指導、日常生活の指導、生活単元学習
- ・ 中学部 … 作業学習
- ・ 高等部 … 作業学習
- ・ 遠野分教室小学部 … 生活単元学習
- ・ 遠野分教室中学部 … 併設校支援学級との交流学习の在り方
- ・ 北上みなみ分教室小学部 … 生活単元学習
- ・ 北上みなみ分教室中学部 … 作業学習
- ・ 寄宿舍 …

本校小学部

1 児童の目指す具体的な姿（低学団）

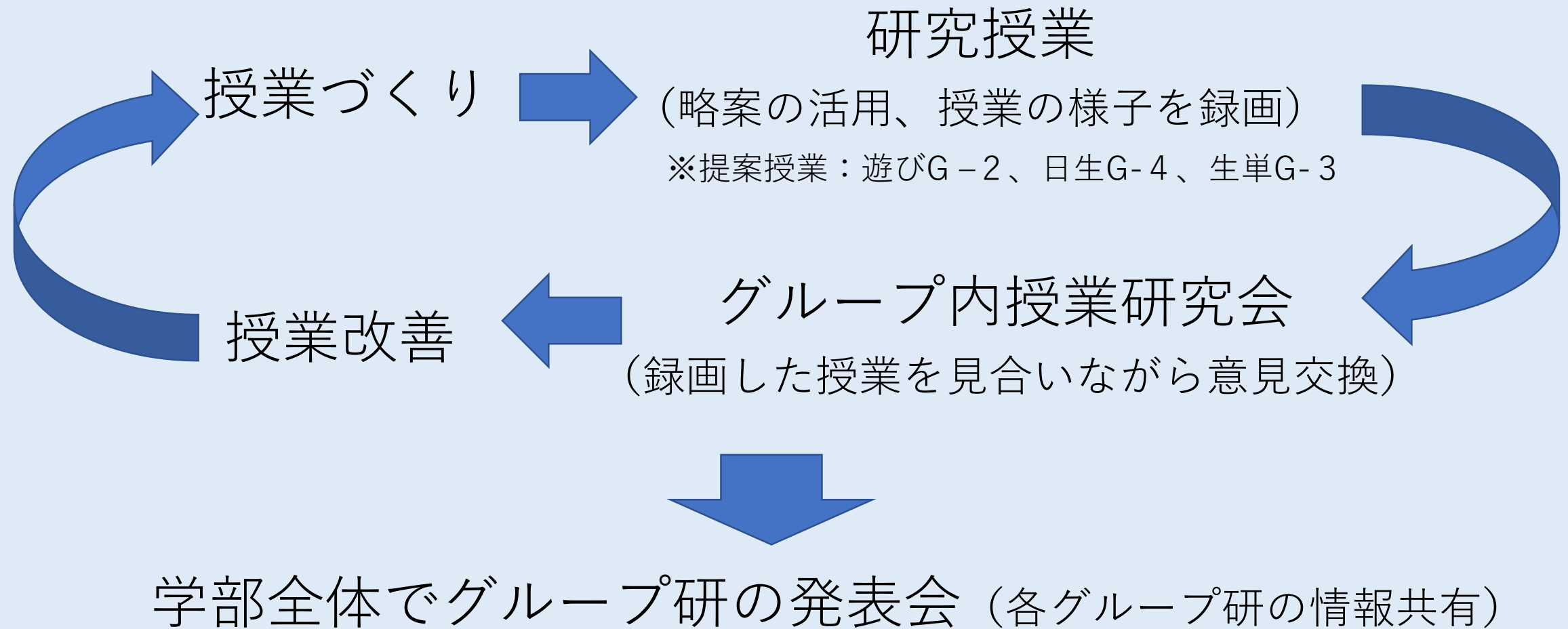


1 児童の目指す具体的な姿（中・高学団）



2 研究の方法

【グループ研究】



3 授業実践報告

指導形態ごとのグループで授業研究会を実施

- ・ 遊びの指導グループ
- ・ 日常生活の指導グループ
- ・ 生活単元学習グループ

【遊びの指導グループ】

実践報告①

小学部 1 ・ 2 年

「げんきランドであそぼう
(段ボール遊び)」

※扱う各教科等：生活科、国語科、算数科、体育科

段ボール積みコーナー



段ボールの道



好きな遊び
を見つける

↓
遊びの工夫

友達の遊び
を模倣



↓
個の遊びから
集団遊びへ

簡単なやり取り
(友達との関わり)

【国語の内容】

言葉での表現
方法を知る
例) 「入れて！」



遊びの中で物の大きさ
や長さを感じる



【算数の内容】

例) 「大きいね！」
「高いね！」

【遊びの指導グループ】

実践報告②

小学部 1 ・ 2 年

「げんきランドであそぼう
(ボール遊び)」

全校授業研究会提案授業：全校研究授業及び授業研究会全校研究会資料のとおり

※扱う各教科等：生活科、国語科、算数科、体育科

【日常生活の指導グループ】

実践報告①

小学部 6 年 2 組

「朝の会をしよう」

※扱う各教科等：生活科、国語科、体育科

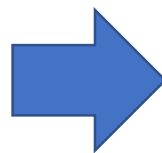


今日の予定（視写）



今日の献立（名称理解）

それぞれの児童に合った活動・
得意なことを役割に設定



自信

深い学び

【日常生活の指導グループ】

実践報告②

小学部 3 ・ 4 年 2 組

「朝の会」

※扱う各教科等：生活科、国語科、算数科、体育科

当番（司会）：会の中で交代



役割の機会
集中力の持続

今日の日付の
導入



「すうじのうた」の動画
⇒注視、数字への興味

今日の日付



補助具の
活用

朝の会の
参加の仕方



児童の日々の困
り感への対応の
仕方（相談）

【日常生活の指導グループ】

実践報告③

小学部 6 年 3 組

「朝の会」

※扱う各教科等：生活科、国語科、算数科、音楽科、体育科

健康観察



朝の会の
当番（役割）



友達同士
の関わり
を設定

天気カードの
マッチング



見え方に困難さ
がある児童

背景のコント
ラスト工夫

聴覚優位を生
かす手立て

児童の変容の事例

毎日の繰り返しの活動が有効

主体的な姿

【日常生活の指導グループ】

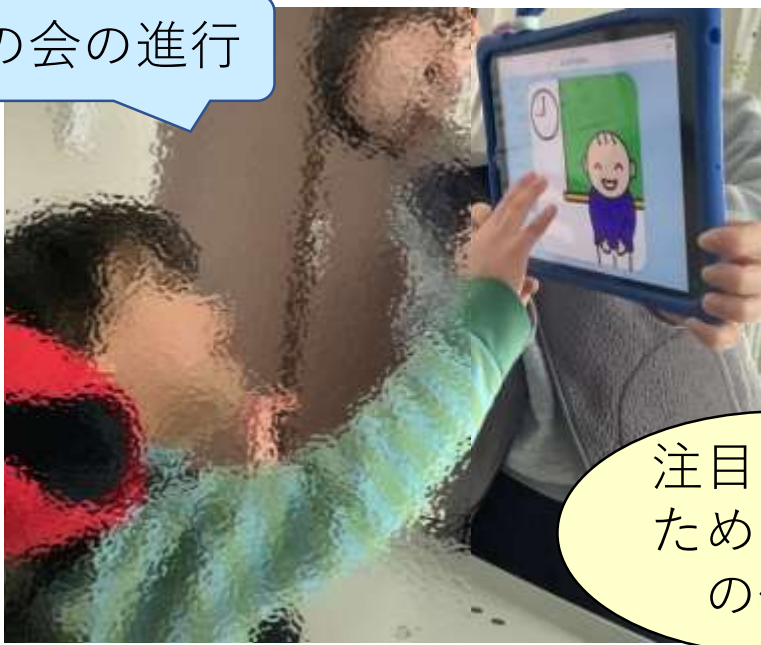
実践報告④

小学部訪問学級（3年）

「はじまりの会」

※扱う各教科等：生活科、国語科、算数科

朝の会の進行



注目を促す
ための提示
の仕方

元気調べ



意思の表出

カレンダーワーク
準備・片付け



日常生活
に生かせる
動作

今日の予定



教材の選び方
⇒実物で見通し
と期待感

【生活単元学習グループ】

実践報告①

小学部 3 ・ 4 年 1 組

「なかよしまつりをしよう」

※扱う各教科等：生活科、国語科、算数科、図画工作科



くじびき作り：視写、なぞり書き
【国語の内容】



おもちゃ作り：ハサミの使用
【図工の内容】

昨年度の単元と関連付け
(R5は食べ物の屋台)



昨年度からの
ステップアップ

学びの系統性

【生活単元学習グループ】

実践事例②

小学部 5 年 2 組

「おばけやしきをしよう」

※扱う各教科等：生活科、国語科、算数科、音楽科、図画工作科



～招待状作り～

普段の学習内容を取り入れた役割分担
手紙係、表紙係、日時係、飾り係
(簡単な文、なぞり書き、マッチング、補助具)

教材教具の工夫



様々な活動場面で
応用

【生活単元学習グループ】

実践報告③

小学部 5 年 1 組

「調理活動

～収穫したサツマイモを調理しよう～」

※扱う各教科等：生活科、算数科



さつまいもを育てる⇒収穫
⇒調理メニューの話し合い⇒調理活動
⇒さつまいものつるで制作活動

一貫性・発展性
のある単元設定



算数の内容

- ・デジタル秤の計量
- ・電子レンジの時間設定 など

4 小学部研究のまとめ

【成果】

- ・グループ内授業研で意見交換、情報共有



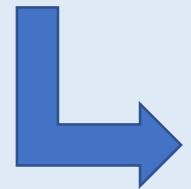
日々の授業を様々な視点からフィードバック
(授業づくりの悩みや子どもの困り感への対応の仕方等)



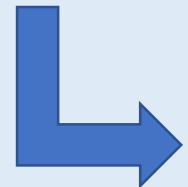
授業改善（活動内容、手立て、教材・教具の見直し）

【成果】

- ・児童の目指す具体的な姿を事前に全体共有

 授業づくりの方向性が明確

- ・グループ授業研、学部全体でのグループ研発表会で多くの授業を視聴

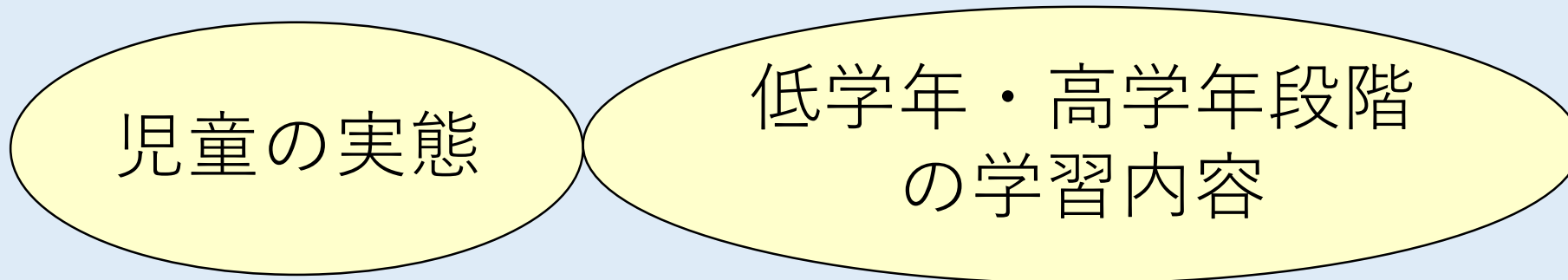
 授業実践力の向上

【課題】

- ・グループ研のグループ編成の仕方を検討
(学団ごとではなく学部全体で縦割り)



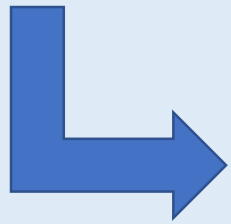
学団を越えて



共有・学び合い

【 課 題 】

- ・ 「児童の目指す具体的な姿」 をより意識した授業づくり



学習指導案の様式、授業研究会の
もち方等を検討

本校中学部

- 1 共有した目指す姿
- 2 授業づくりの取組
- 3 各作業班の取組
- 4 学部研究の成果と課題

1 共有した目指す姿

(1) 自立と 社会参加

1学年

自立

自分でできることを
増やしていくこと。
(身辺自立等)

身辺自立

⑧ 基本的な身の
回り事ができる。

- ・服の着脱
- ・シャツをズボンに
入れる
- ・ティッシュで鼻を
かむ

身辺自立

- ・職業選択
- ・働く力

自分の要求を
相手に伝える。
(やりたいこと
行きたいところ
自分の気持ち等)

・気持ちの伝達
(伝える力)

・きまりやルールを
守った生活

自分の気持ちを
相手に伝える
ことが出来る。

自分のできること
を(存分に)
発揮する

⑨ 自分の思い考え
をもち、伝えることが
出来る

自分の状況に
合わせて、周りの人
に協力や助けを
求める。

⑩ まわりの人から
好まれる人間性
(性格
行動
言葉
表情)

お金の管理

社会参加(1年)

⑪ 自分の好きなことが
認められること

活動できる
人、こゝ・場所、
時間が複数ある
可能な限り増やす

・地区PTA活動
への参加

・地域活動に
参加
(スポーツ大会等)

⑫ 生活の場以外の
コミュニケーション
活動

好きな人
ことが
ある。
(広げられる)

何らかの
コミュニケーション
ツールがあり、
相手とやりとりする

⑬ まわりの人から
自然と手と差しのべ
もらえる環境にいる。
(自分がある)

ルールがある
ルールを守れる
ルールにたてこえる
迷惑をかけない

2学年

自立

家族以外の人から
ケアを受ける。

看護(吸入)

・入浴

・

自分のことは自分で
できる

着かえ、歯みがき

食事、トイレ

自分の意思を伝える

自分の身の回りのこと
やまわりのことを

(自立)

・伝える力

・素直に感じる力

・自己自立(自己肯定)

・心の自立 (自立)

自立

最低限の自分の身の
回りのこと

自立

自分の身の回りのこと
やまわりのことを自分で
できること。また、
自分の意思を伝えること
ができるようになること。

自分で
身の回りのことを
する

社会参加 (2年)

家族以外の人から
声を掛けられてもら
う

顔を知ってもら

社会参加

- ・周りの人々と
楽しく過ごせる
- ・誰とでも、一緒に
活動できる

家以外の自分の
場所を見つけ、他者と
同じにつながる。
(活動力、協力)

社会参加
地域の人との交
りあひ。(自分のこ
とも知ってもら)

家族以外に関わり
をもつこと。

自分のことだけでなく
「家族、周囲の人」
「地域の人」のことに
関心をもつこと。
(製品づくり等)

家族以外の人
と関わる

3学年

自立

＜自立＞

個々の置かれた環境や
与えられた条件の中で
自分で選択し、実行する
問題が生じたときには
修正を図ること。

自分で選択し

自分で決定する

(自己選択 自己決定)

自分のこと
は自分で
やる。

身のまわりの
ことが自分の
力でできる。

自立

自分の身のまわりの
ことは自分で
できる

自立(社会参加)
自分の成長と生活
に必要なサポートを生活
していける力をつける

自立

困ったときに、地域
隣近所、知り合いに
相談できる

自立

自分が生活していく
うえで必要なことを
福祉課に相談できる

自立

自分に必要な支援
を受けながら、
楽しく生活すること

社会資源を
活用しながら
自分らしく生活

困ったときに
周りの人に話す
ことができる

社会参加

地域の一員として、
顔と名前を覚えてく
らう。

社会参加

家族や家族以外
の人とも関わり合い
ながら暮らすこと。

＜社会参加＞

他人と関わりあふこと
その形や規模は様々

他者の助言や援助
を受けながら、
自分のやりかた、思い
をもって生活する

自分の考えや思いを伝え
まわりの人と関わりながら
自分らしく生活すること

自分から関わりあ
いながら、人からの関わり
を受け入れながら生活する。

できることを増やす
できていることをほめる

可能性を広げる
(視野を広げる)

(2) 学部目標の具体的な姿

中学部生徒の具体的な目指す姿 (1年生)

(1) 健康でたくましい体をもち思いやりのある生徒	(2) 興味のある活動を増やし、生き生きと生活する生徒
体力 ・ 体力をつける ・ 楽しく運動に取り組む ・ 体を動かすことの楽しさを知る ・ 体力が向上し授業に集中できる ・ 生活するうえで必要な体力がある ・ 体全体を可能な限り使って生活する ・ 一定時間、活動に参加できる ・ 決められた時間、最後まで活動できる 健康管理 ・ 自分の健康状態を伝えられる(暑い、疲れたなど) ・ 病気やけがを予防するための行動を行おうとする 姿勢 ・ より良く活動するための姿勢が分かり、維持できる 状況把握 ・ 周りの人、もの、ことに意識を向ける ・ 変化に気付く ・ 状況を把握し、言動を工夫する 気持ちの伝達 ・ 自分からあいさつができる ・ 返事など、相手からの関わりに反応する ・ あいさつ、返事、感謝や謝罪の気持ちを伝える ・ 相手の提案や助言を受け入れる	自分の得意・好きを見つける ・ 好きな活動を見つけ、すすんで取り組むことができる ・ 好きなことに精一杯取り組む ・ 余暇活動を見つけるなにか一つでも好きなことを夢中になれること 興味関心を広げる ・ 「できた」「分かった」の経験の積み重ねから興味・関心を広げる ・ 新しい出会いを受け入れられる ・ 生徒の興味・関心をひくような授業づくりをすることで、興味のある活動を増やす
集団生活のルール ・ 約束やきまりを守るようにする ・ 安全に生活するための技能・習慣を身に付けている ・ 学校生活、集団生活 ルールに沿って生活できる[時間を守る] ・ 集団の約束やきまりを意識して守ろうとする 仲間意識 ・ 教師や仲間 地域の人に興味をもつ ・ 学校生活 学校のコミュニティに安心感をもつ ・ ふわふわことばを伝え合いながら、友達と一緒に様々なことに取り組もうとする ・ プラス思考 ・ 相手の気持ちを考えた言葉がけや行動ができる	伝える力 ・ 気持ち 考え 伝える力 ・ 自分の思いや考えをもち、相手に伝わる方法で表現する 感情のコントロール ・ 思いどおりにならない時の対応 → 迷惑をかけない
(3) 社会生活に必要なルールに沿って主体的に行動できる生徒	(4) 思いや願いを伝えながら、仲間と協力して活動する生徒

中学部生徒の具体的な目指す姿 (2年生)

(1) 健康でたくましい体をもち思いやりのある生徒	(2) 興味のある活動を増やし、生き生きと生活する生徒
健康・たくましい体 ・授業時間には体調を整えて活動できる ・体を動かす活動を楽しみにして取り組むことができる(ランニング、畑活動等) ⇒ 嫌がっている ・体を動かすことが楽しい ・1週間毎日学校に来て、1日6時間の授業を受けることができる ・1日の学校生活をしっかり活動できる おもいやり <実態 思いやりはある> ・近くにいる人(友達、教師)のことを気にかける、考えられる ・友達が困っているときに声をかける 行動に移す	好きなことを見つける ・学習の中で 楽しいとか好きな活動を見つける ・興味ある物や音の方に顔を向ける ・好きなことを見つけて自分で過ごせる 好きなことを伝えられる(昼休み、作業、体育、音楽、美術) 苦手なことにもチャレンジ! ・新しい活動を取り入れて、難しくても取り組んでみる やってみる姿 ・安心していろいろな素材にふれたり、音をきいたりできる ・会話や調べ学習を通して言葉の知識量が増える
マナー、ルール <実態 やりたいこと優先> ・いろいろなマナーを身に付けていく ・教室を出るときには先生に話をしてから出るなど、周囲を困らせない ・順番を守る ・やって「良いこと」「ダメなこと」が分かり、集団で行動できる ・バギーや車イスに一定の時間乗ってられる	気持ちを伝える 育てる ・素直な気持ちを表現できる ・自分の思いを伝える ・いろいろな物の中から選択する ・自分一人で手や足や四川など身体の一部を動かすことができる。声を出すことができる ・自分の意志をおちついて相手に伝えられる(相手が不快に思わない方法で) ・あいさつ 返事 だけでなく「ありがとう」「ごめんなさい」が言える 脱・対大人 ・一つの活動と一緒にやる ・一つのものを一緒に作り上げる ・友達どうして関わり合える →教師を介さないやりとりを増やしたい
(3) 社会生活に必要なルールに沿って主体的に行動できる生徒	(4) 思いや願いを伝えながら、仲間と協力して活動する生徒

中学部生徒の具体的な目指す姿（３年生）

(１) 健康でたくましい体を持ち思いやりのある生徒	(２) 興味のある活動を増やし、生き生きと生活する生徒
把握・伝える - 健康を意識し、疲れたり具合が悪いことを感じとる → ことばで伝えることができる - 不調時に教師に伝えることができる - 友達に関心をもつ	チャレンジ！ - 友達の様子に関心をもったり、新しいことにチャレンジしたりできる - いろいろなことに挑戦、「やってみよう」 - 授業で、「やってみたい！」という気持ちをもって学習している - 初めての活動にも挑戦できる！ - 失敗をおそれずチャレンジする（前向きな取組） - やりたいことを安心して大人に提案することができる（否定されない環境を作ること） - 作業学習の時に、紙すきで失敗した原因を自分で考え、次の作業に生かせる
主体的 - 見通しをもち、次の活動の準備ができる - 活動の中でルールを守ることができる	友だちとの関わり - 友達との関わり、先生との関わり、適切な距離とことば - 友達のがんばりに「すごいね」「がんばってるね」と言える - 適切なことばで（ことばを考えて）友だちと話す - 会話や意志を伝えるだけでなく、会話のキャッチボールができる 伝える・受け止める - 相手の気持ちを受け止めることができる - 自分の言動が周囲に影響をおよぼしていることを知る - 自分の気持ちを言葉や絵カードを使って伝える - 自分の思いを伝え、相手の気持ちを受け止める - 自分の感情を表現する（穏やかな方法で） - ことばが足りなくても、なんとか伝えようとする - 好きなことも苦手なこともがんばれる（最後までやってみる） - 不安だけど、友だちや先生となら頑張ることができる - 一人では難しいけど、友だちと一緒にやったらできた、という姿 - 自分の思いこみで行動しない
(３) 社会生活に必要なルールに沿って主体的に行動できる生徒	(４) 思いや願いを伝えながら、仲間と協力して活動する生徒

2 授業づくりの取組

(1) 対象とする授業

作業学習・・・リサイクル班、工芸班、カレンダー班

(2) 各作業班で、各教科等を合わせた指導の内容の確認

→ 授業づくり

(3) 研究授業の実施「じまん市②に向けた単元」

(11月13日…カレンダー班、18日…リサイクル班、工芸班)

(4) 授業研究会の実施 (11月19日)

(5) 授業研究会を受けて、授業の見直し

(6) 各班でのまとめ

3 各作業班の取組

リサイクル班

(1) 単元で扱う各教科等

職業・家庭、国語、算数・数学、美術

(2) 単元の目標

- ア 製品づくりの流れを知り、丁寧に自分の作業に取り組むことができる。（知識及び技能）
- イ 自分が作った作業製品の仕上がりを確認したり、報告をしたりしながら作業することができる。（思考力、判断力、表現力等）
- ウ 製品を買ってくれる人のことを考え、製品の質や作業効率を良くしようと考え、工夫しようとすることができる。（学びに向かう力、人間性等）

(3) 授業づくりで検討したこと

○目標設定について

- ・生徒自身が工夫したり、自ら確認したりしながら作業する姿を目指し、目標に入れていくことを確認。

○支援について（教材、場の設定、個々への支援等）

- ・「丁寧」について、生徒が意識できるよう具体的な捉え方、基準を設定
- ・活動場所の環境づくり（生徒に応じた場所、設定について）

(4) 授業研究会での協議の柱

- ・正確に計量、袋詰め、できたものの仕分けについて
- ・報告について

(5) 授業研究会を受けて確認したこと、取り入れたこと

- ・生徒が製品の良し悪しを判断する基準
→ 「○」「×」の項目化
- ・活動場所の構造化
- ・「きれいに作業する」「丁寧さ」の伝え方、基準の明確化

(6) 授業づくりをとおして、生徒の変容

- ・生徒が考えながら作業を進めることができるようになった。
- ・自分から報告できる生徒が増えた。
- ・友達同士で相談しながら活動する場面が見られた。
(ラベル貼り)



工芸班

(1) 単元で扱う各教科等

職業・家庭、国語、算数・数学、図画工作・美術

(2) 単元の目標

ア 製品作りの手順が分かり、用具の扱い方を身に付けて丁寧に作業することができる。（知識及び技能）

イ 目標を設定し、目標達成に向けて自分の作業の様子を振り返り、改善することができる。（思考力、判断力、表現力等）

ウ じまん市の販売会に向けて、製品を買ってくれる人のことを考えて、製品作りや販売準備をしようとする。（学びに向かう力、人間性等）

(3) 授業づくりで検討したこと

○目標設定について

- ・第1回じまん市、こたままつりの販売でたくさん購入してもらえた経験から、「買ってくれる人のことを考える」という単元目標を設定した。
- ・生徒も、今までの販売経験を生かし、段階を踏むことで、この目標を意識することができた。

○支援について（教材、場の設定、個人への支援等）

- ・買ってくれる人を意識できるようにイラストを提示した。
- ・じまん市②までの作業回数やそれぞれの工房で取り組んだ作業について視覚化できるように、表を作成し提示した。
→じまん市までの作業回数など見通しをもつことができた。

(4) 授業研究会での協議の柱

- ・製品を買ってくれる人のことを考えて製品を作るためには、どのような指導・支援をしたらよいか。
- ・Aさんへの支援について（時間いっぱい意欲的に作業に取り組むためには）

(5) 授業研究会を受けて確認したこと、取り入れたこと

- ・お客さんからアンケートをとる → じまん市後の振り返りでお客さんからのコメントの映像を見たり、アンケート用紙に記入されていたことを紹介したりすると、生徒は嬉しそうだった。
- ・製品を自分で使ってみる → 冬休み前の大掃除で、流し掃除にアクリルたわしを使用した。「（汚れが）取れるね」と実感をもって話していた。

(6) 授業づくりをとおして、生徒の変容

- ・作業のやり方が分かり、黙々と取り組める生徒が増えた。
- ・集中できる時間が増え、作業スピードも上がった。
- ・作業自体の見通しがもてるようになった。
- ・「買ってくれる人のことを考える」という目標を設定し取り組むことで、生徒たちにもその意識が芽生えた。更に、アンケートを取ったことでダイレクトに生徒に返すことができ、意識が高まった。
- ・各工房で仲間意識が芽生えた（同じ工房の友達を気遣う様子、声を掛ける、など見られるようになった）。
- ・Bさんは、販売で購入してもらえるのが嬉しかったようで、作業中寝なくなり、時間いっぱい意欲的に作業できるようになった。



2025年3月

カレンダー班

(1) 単元で扱う各教科等

職業・家庭、社会、国語、数学、美術、道德

(2) 単元の目標

ア 壁掛けカレンダー作りに使用する道具や材料の扱い方、自分の役割や担当工程の手順が分かって、適切に取り組むことができる。(知識及び技能)

イ 印刷工程や壁掛けカレンダー完成までの工程に見通しをもち、仕上がりを確認したり、自分の思いや考えを伝えたりしながら取り組むことができる。
(思考力、判断力、表現力等)

ウ 販売会「じまん市」に向けて、仲間と協力しながらきれいに印刷されたカレンダーを作るために工夫しようとする。
(学びに向かう力、人間性等)

(3) 授業づくりで検討したこと

- ・単元で扱う各教科等の内容について、道徳についても検討し、挿入した。

○目標設定について

- ・単元目標、後期の個別目標、本時の目標と段階的に設定し授業づくりができた。
- ・個別の指導計画に関連させて、日々の目標設定を行うことができた。
- ・年間指導計画についても見直しをし、販売活動を行う行事に向けて作業内容順を工夫した。そのことにより、生徒が印刷工程に見通しをもったり、効率よく作業を進めたりすることができた。

○支援について（教材、場の設定、流れ、個々への支援等）

- ・実態に応じたグループ編成や担当の工夫や動線を考えた場の設定
- 2025年3月 → 主体的に活動する姿が増えた。

- ・対話的な学びの場の設定
 - 生徒同士の話し合いの力を付けるために、刷りの仕上がりについて話し合う機会を設けた。また、そのためのチェック表を用意した。
- ・働き掛けの工夫
 - 注意してほしいことを付箋等のメモで机に貼ることで、生徒自らが気を付けようとする姿が増えた。

（４）授業研究会での協議の柱

- ・生徒の実態や作業班の活動内容に応じた挨拶、依頼、報告等の指導・支援について
- ・様々な実態の生徒で構成されたグループの中で、作業の質や効率への意識を促す指導・支援について

(5) 授業研究会を受けて確認したこと、取り入れたこと

- ・ 生徒同士の関わりが大切であることを教師が再確認した。仲間同士のやりとりの方法を整理し、生徒と確認した。
- ・ 生徒が報告、返事をできるよう、教師が見本となるような挨拶をすること。
- ・ 今後、さらに活動しやすい作業台などの教具、作業室内の整理や動線の工夫。

(6) 授業づくりをとおして、生徒の変容

○全体

- ・自分だけでなく、周りの様子を見ながら作業できるようになった。
- ・班員や教師の名前を覚えたり、相手を気遣う様子が見られたりするようになった。

○個人

- ・仕上がりを確認するようになり、ミスが少なくなった。
- ・刷り担当同士、話し合って刷り上がりの状態を確認する様子が見られた。
- ・仲間に伝わるように発言ができるようになった。



2025年3月



79

4 学部研究の成果と課題

(1) 成果

- ・職員が集まって話し合いをもつことで、生徒の実態や支援方法について共有し、授業改善につながり、生徒の成長が見られた。
- ・支援対象生徒について検討した結果、他生徒にも関わる内容もあり、多くの生徒に変容が見られ、作業班全体にまとまりが見られた。
- ・授業研究会で改善案が数多く出され、参考になる点が多く、今後につながる研究となった。
- ・各教科とのつながりを確認することまではいかなかったが、個別の目標の中に国語や数学に関わる目標もあり、意識して取り組むことができた。
- ・授業主担当と研究推進担当を分けることで、指導案作成の分担や対象生徒の割振りなど推進日程を調整し、計画的に研究授業の取組をすることができた。

(2) 課題

- ・研究の進め方について、研究授業が遅い時期になってしまった。授業研究会で出された意見を授業に生かし、更に授業改善をするには日程的に余裕がなかった。もっと早めに日程を決め、進められると良かった。
- ・あらかじめ班で話し合う項目を提示し、全員が記入したものを持ち寄るなど、効率よく話し合いを進められると良かった。
- ・他の教科や生活場面へのつながりについては、あまり話し合うことができず、深められなかった。

本校高等部

1 全校研究会を受けて

高等部研究について

(1) 目的

一人ひとりの生徒が高等部卒業後に地域社会の中で役割を果たし、生涯にわたって充実感をもちながら、自分らしい生き方を実現するために必要な基本的な力の育成を図る。

(ア) キャリア教育の視点に基づく「育てたい力」を育成するための作業学習の実践を目指す。

(イ) 生徒一人ひとりが学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら、集団の中で自分の役割を果たしたり、誰かの役に立ったりする経験を通して働くことの意義や価値を実感できる作業学習の実践を目指す。

(2) 研究グループ

各作業課から縦割りで構成する。

2 研究の方法

- (1) 目指す生徒の姿、身に付けたい力の共有
(R5 花清魅力化プロジェクト資料より)
- (2) 学習会
 - ①各教科等を合わせた指導について
 - ②主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善について
- (3) 学部研究内容の検討
 - ①授業づくりと改善に必要な項目についてのアンケート実施
 - ②研究グループ構成
- (4) グループ研究の実施、試行、再検討
- (5) 研究授業実施（食品加工課）
- (6) 授業研究会実施

3 研究の経過

	研究会・月日	内容
1	第1回研究会・6月11日(火)	・高等部の研究について提示、学習会実施 (目的、グループ、研究項目についてのアンケート実施)
2	第2回研究会・7月19日(金)	・研究項目の決定、各グループ (身に付けさせたい力、授業改善に向けた検討)
3	第3回研究会・8月21日(水)	・各グループ (授業改善に向けた検討、試行に向けた準備)
4	第4回研究会・10月8日(火)	・各グループ (試行後の見直し)
5	第5回研究会・11月19日(火)	・学部全体研究 (各グループからの報告と内容の共有)
6	研究授業・12月11日(水)	・研究授業(授業提供:食品加工課) 「花巻清風オリジナルブレンドコーヒーを作ろう!」
7	第6回研究会・12月24日(火)	・授業研究会
8	第7回研究会・1月22日(水)	・学部研究のまとめ

4 研究実践

(1) 目指す生徒の姿、身に付けたい力の共有 (R5 花清魅力化プロジェクト資料より)

【3年間で(卒業までに)付けたい力】

※8/1に考えた付けたい力と学校教育目標・花清キャリア全体計画を照らし合わせ、いわてのキャリア教育指針により整理

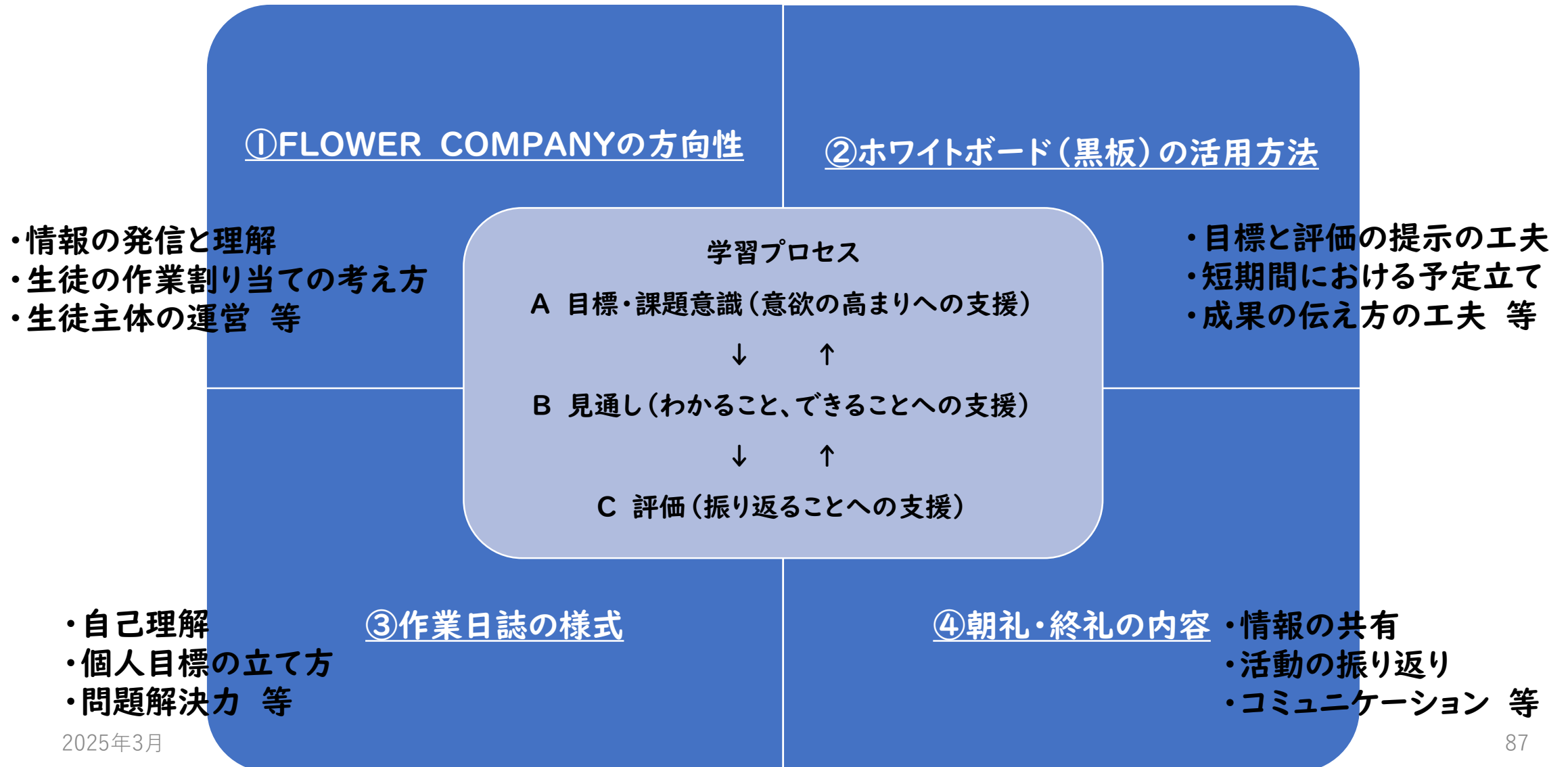
総合生活力	確かな学力	・基礎学力(分かる、できるようになる) ・問題解決力(困った時にどう対処するか、困った時に相談できる、ポジティブさ、ストレスへの対処 等) ・情報収集・活用能力(ICT 活用 等)
	豊かな心	・社会性、コミュニケーション力(挨拶、返事、聞く、話す、自分なりの発信、仲間と声を掛け合う、困った時に助けを求められる、当たり前のマナーやルール、礼儀 等) ・人間性(相手を思いやれる心、感謝の気持ちをもてる、間違いをごまかさない誠実さ 等) ・協調性(進んで協力、貢献する意識・態度 等) ・継続、持続力(根気、ストレスへの対処 等)
	健やかな体	・身辺自立(身だしなみ、清潔さ 等) ・健康、体力(健康管理とその意識 等)
人生設計力	社会を把握する能力	・状況判断(周囲を見て動く、自分で考える 等)
	勤労観・職業観	・自己理解(自分は何が得意なのか、何が難しくて、その対処はどうすればよいか 等) ・主体性(目的意識、自ら行動する、決められたことを自分からやる、新しいこともやってみようと思う 等) ・責任感(何事も最後までやり遂げる 等)
	将来設計力	・自分のよさや可能性の認識(何事も一生懸命に、楽しんで、前向きに、自信をもつ、自分のよさや強みに気付く 等) ・目的意識(自分で目標をもつ) ・自己選択、自己決定力(選ぶ、決める 等)

=地域で生きる・地域で働く人になる 力の育成

※人(友達、自分の周りにいる誰か、地域の方)とつながりながら
※働く:社会の中で、自分らしく、様々な役割を果たす

(2) 授業づくりと改善を目指して

～作業課全体の共通項目を整える4つの取組を通して～



(3) 各グループの取組

①FLOWER COMPANY(高等部作業学習)の方向性

FLOWER COMPANYの方向性 グループ

身に付けさせたい力	*各項目(グループ)で関係する「身に付けさせたい力」を花清魅力化プロジェクトの表からピックアップしてください。 ①自己理解 ②主体性 ③情報活用能力
授業改善に向けた検討事項	① 生徒の自己理解を高めるために… ・得意、不得意を自分で理解する、理解できる支援をする。 ・いろいろな経験をする機会を設ける。 ・作業課編成について 課をひっぱり三年生も未経験者なため、4月の活動をスムーズに始めることができない。 →先生方に上記懸念事項を解決するためのアンケート実施 ②会社の社員の一人であること意識をもった活動をする。 ・目的意識、地域とのつながりや地域貢献の視点をもって活動する。 →生徒に気づきを与える声掛け、一問一答で終わらず、「なぜ? どうして? なののために?」 ・指導者間での会話を大切にする。 ・生徒主体の運営 →来校者への活動報告(パネルの説明) 来校者からの質問答に答えられるようなスキル ・日常的な会話の中で課題をフィードバック、出来たことへの賞賛をすることで来校者から作業課の様子を聞かれても答えることができるようにする。 ③プロモーションビデオの作成 ・外部に向けて作業課の取り組みを発信 ・各課で写真や動画を撮る
グループ研究の推進計画	*計3回の計画を立てていきます。 7/19…全体計画、検討事項 8/21…アンケート項目整理、動画のイメージ 10/8…アンケート結果からの FLOWER COMPANY の方向性

グループ研究のまとめ	*話し合ったことや全体で共有したいこと、作成した様式等。(11/19に共有予定です) ①作業課の経験数について ②作業課の重複について ③4月をスムーズにスタートさせ、3年生が4月から自信をもってリーダーシップを発揮できるようにするためのアイデア 別紙
------------	---

◎身に付けさせたい力を明らかにした実践結果

【成果】

- ・生徒自身が自分の得意・不得意、苦手なことへの対処方法を知る「自己理解」を促すための支援の必要性について共通理解を図った。
- ・作業課編成について、職員で検討することができた。

①経験数…各学年1年間通して、同じ作業課に所属する。(積み重ねの学習、年間を通した単元設定が可能、納会を締めくくりとしたゴールが見えやすい)

②3年生がリーダーシップを発揮できる体制づくり…1年間のまとめである作業納会後に3年生から2年生への引継ぎ期間を設定する流れを確立することができた。

・生徒の主体性を育むために、目的意識、地域とのつながりや地域貢献の視点をもつ取組を行うことができた。

・外部に向けた情報発信のためにプロモーションビデオの制作に取り組んだ。生徒の情報活用能力(情報モラルを含む)の育成に向け、今後生徒とともに発信するインスタグラムの開設を進めていく。

【課題】

- ・生徒主体による会社全体・所属課の運営力を高めていく。

②ホワイトボード(黒板)の活用方法

ホワイトボード(黒板)活用方法 グループ

身に付けさせたい力	※各項目(グループ)で関係する「身に付けさせたい力」を花清魅力化プロジェクトの表からピックアップしてください。 ①情報収集(黒板から必要な情報を捉え、日誌に記入する力) ②状況判断(工程表を見て自分の作業内容や担当する作業の繋がりが分かり、目標や見通しに繋げる力)
授業改善に向けた検討事項	※身に付けさせたい力がつくように、学習プロセスの視点で、グループで検討していくことをあげていきます。 【ホワイトボードの活用案】 【課目標の内容検討】
グループ研究の推進計画	7/19…身に付けさせたい力の検討、授業改善に向けた検討事項の整理、全体計画 8/21…ホワイトボードの内容を検討 (9/17(火)～各作業課でホワイトボード活用案を活用し検証) 10/8…各作業課のアンケートをもとにホワイトボードの活用について協議 課目標の内容を検討
グループ研究のまとめ	※話し合ったことや全体で共有したいこと、作成した様式等。(11/19に共有予定です) 【ホワイトボードの活用案】 単元目標 「〇〇に向けて ～ しよう」 日付 〇月〇日() 天気 本時の目標 _____ ①作業課で提示した目標を記入 ②生徒が日誌を振り返り、前時の反省を受けて、自分で目標を設定する。 本時の作業内容と分担 ①作業内容+名前 ②作業工程+名前 成果 ①表やグラフを用いて作業量や製品個数をあらわす。 ②作業した内容について、相手から評価を受けることで成果や反省につなげる。 ・作業課での検証後のアンケート集計結果(別紙1) ・単元目標を受けて、本時の目標を生徒に考えさせることも良いのではないか。 ・成果や振り返りの中から、生徒の気づきを引き出し取り上げることも良いのではないか。 【課目標の内容検討】 ・「3年間で(卒業までに)付けたい力」の項目や内容を参考に目標立てする。

◎身に付けさせたい力を明らかにした実践結果

【成果】

- ・課の目標を板書することで、個人の目標がたてやすくなった。
- ・本時の作業内容が分かりやすくなり、作業全体への見通しをもち、状況を判断する力につなげられる。

【課題】

- ・成果の示し方に検討が必要。

③作業日誌の様式

作業日誌 グループ

身に付けさせたい力	*各項目(グループ)で関係する「身に付けさせたい力」を花清魅力化プロジェクトの表からピックアップしてください。 問題解決力、自己理解、主体性、目的意識、自分のよさや可能性の認識
授業改善に向けた検討事項	*身に付けさせたい力がつくように、学習プロセスの視点で、グループで検討していくことをあげていきます。 ・目標を自分で考えることができるように ・自分で決めた目標に対する反省ができるように →「次の日の目標」の欄を作る
グループ研究の推進計画	7/19…授業改善に向けた検討事項の決定 8/21…日誌様式の変更内容の検討 (検証期間:2週間 アンケートを取る) 10/8…アンケート結果を受けて再検討
グループ研究のまとめ	*話し合ったことや全体で共有したいこと、作成した様式等。(11/19に共有予定です) ★アンケート結果 ①日誌形態について (3種類にしたこと、課目標欄と次の時間の目標の欄を作ったこと) I型 ・より具体的に個人目標を決定できるようになりよかった ・課目標と個人目標が別になっていて考えやすかった II型 ・I型だと難しい生徒にとって記入しやすくなった III型 ・内容が分かりやすく、反応が増えた・ ・重複の生徒にとって記入しやすくなった ②日誌の記入内容について (実習日誌に近い形、作業内容が分かり個人目標を自分で的確に立てることができるような) ・自発的に書ける生徒にはよい ・今日の反省が次時の目標につながってよいと思う ③その他 ・日誌を書くのに時間がかかるようになった ・統一した日誌だと次年度作業課が変わっても生徒自身で記入できてよいと思う ・週3日間の作業が1ページで記入できるようにすると、比較や気づきにつながりやすくなるのではないかと考えた ★アンケート結果を受けて ・次の時間の目標の欄を作ったのはよかったと思う。自分で考えた目標と次の時間の内容が違う場合もあったが、自分と向き合って目標・反省を考えることがまず大切 ・書くのが遅い生徒には個別の支援を ・実習日誌に近い形式にし、教師がいなくても自分で書くことができるように ・4月に日誌記入を定着することができるような期間を設ける

◎身に付けさせたい力を明らかにした実践結果

【成果】

- ・日誌の形態を3種類準備したことで、生徒の実態に応じた様式を使用することができる。
- ・課目標と個人目標を記入することができ、主体性を育む一助となる。
- ・本時の反省が次時の目標につなげやすく、問題解決力の高まりが期待できる。
- ・教師からの評価が、自分のよさや可能性の認識、自己理解につながる。

【課題】

- ・生徒によっては、日誌の記入に時間がかかる。

④朝礼・終礼の内容

朝礼・終礼の内容 グループ

身に付けさせたい力	*各項目（グループ）で関係する「身に付けさせたい力」を花清魅力化プロジェクトの表からピックアップしてください。 ①社会性、コミュニケーション力 ②目的意識 ③主体性
授業改善に向けた検討事項	*身に付けさせたい力がつくように、学習プロセスの視点で、グループで検討していくことをあげていきます。 〈朝礼〉 ・進行は輪番で行い、「今日の作業」について課長が話しても良い。 ・前時の振り返りをして「今日の目標」を確認する。 ・社訓や働く人の心構えを確認する内容があっても良い。 ・「身だしなみ点検」一般就労を目指す生徒は事前にセルフチェックを。 〈終礼〉 ・本時の作業を振り返ることができるようにする。
グループ研究の推進計画	*計3回の計画を立てていきます。 7/19・・・「身に付けさせたい力」のピックアップ。 朝礼・終礼に取り入れたい内容の話し合い。 8/21・・・朝礼、終礼の次第内容の整理をする。 10/8・・・試行後のアンケートを受けて再検討。
グループ研究のまとめ	*話し合ったことや全体で共有したいこと、作成した様式等。（11/19に共有予定です） 【朝礼】 - あいさつ - 今日の予定・・・課の生徒の実態に応じて生徒が話しても良い。 作業内容や分担、本時の目標について確認する。 - 連絡 - 服装の確認・・・セルフチェックを基本とし、生徒の実態に応じてペアになっても良い。 確認後は「いいです」と声を掛け合う。 - あいさつ練習・・・生徒が輪番で行う。 - あいさつ 【終礼】 - あいさつ - 目標の振り返り・・・生徒が個人目標についての振り返りを発表する。 - 今日の作業成果・・・朝礼で確認した「本時の目標」についての振り返りをする。 生徒が取り組んだ作業内容や作業量についての評価をする。 - あいさつ

◎身に付けさせたい力を明らかにした実践結果

【成果】

- ・服装の確認をペアからセルフチェックに変更したことは、個人の意識や時間短縮につながる。
- ・挨拶練習を輪番にしたことで、全員の主体的な意識の高まりが見られる。
- ・単元目標や本時の目標を確認することで目的意識がもてる。

【課題】

- ・服装の確認は、作業室入室前に完了できるように意識させたい。
- ・終礼時に作業成果を評価できるように、目標を具体化していく。

⑤ 試行・評価・改善結果

～学習プロセスを意識して～



(4) 研究授業 (食品加工課)

1 単元名

「花巻清風オリジナルブレンドコーヒーを作ろう！」

2 単元で扱う各教科等の内容

本単元では、作業学習を指導するにあたり、特別支援学校高等部学習指導要領職業科、国語科、数学科、社会科、道徳の以下の内容を受けて設定している。

職業	高等部 1 段階	内容	
	A 職業生活 ア 勤労の意義	(イ) 思考力・判断力・表現力等	・意欲や見通しをもって取り組み、その成果や自分と他者との役割及び他者との協力について考え、表現すること。
		(ウ) 学びに向かう力、人間性等	・作業や実習等に達成感を得て、計画性をもって主体的に取り組むこと。
	A 職業生活 イ 職業	(ア) 知識及び技能	⑦職業生活に必要なとされる実践的な知識及び技能を身に付けること。 ⑧材料や育成する生物等の特性や扱い方及び生産や生育活動等に関わる技術について理解すること。 ⑨使用する道具や機械等の特性や扱い方を理解し、作業課題に応じて正しく扱うこと。 ⑩作業の確実性や持続性、高地性を高め、状況に応じて作業すること。
		(イ) 思考力・判断力・表現力等	⑦作業や実習における役割を踏まえて、自分の成長や課題について考え、表現すること。 ⑧生産や生育活動等に関わる技術について考えること。 ⑩作業上の安全や衛生及び作業の効率について考え、改善を図ること。
国語	高等部 1 段階	内容	
	A 言葉の特徴や使い方に 関する事項	知識及び技能	(カ) 日常よく使われる敬語を理解し使うこと。
	イ 情報の扱い 方に関する事項		(ア) 考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など、情報と情報との関係について理解すること。 (イ) 比較や分類の仕方、辞書や辞典の使い方などを理解し使うこと。
	A 聞くこと・ 話すこと	思考力・判断力・表現力等	ア 社会の中で関わる人の話などを、話し手が伝えたいことの中心に注意して聞き、話の内容を捉えること。
	B 書くこと		ア 相手や目的を意識して、書くことを決め、集めた材料を比較するなど、伝えたいことを明確にすること。
	C 読むこと		エ 目的を意識して、文章と図表などを結び付けるなどして、必要な情報を見付けること。
数学	高等部 1 段階	内容	
	C 変化と関係 2025年3月 の数量に関わ	(ア) 知識及び技能	⑦ある二つの数量関係と別の二つの数量関係を比べる場合に割合を用いる場合があることを理解すること。

単元名、単元で扱う各教科等の内容、単元の目標

R6 改訂版 学習指導案様式 各教科等を合わせた指導版(学部研究用)

	る事項 D データの活用 ア データの収集とその分析 に関わる事項	(ア) 知識及び技能	⑦データの収集や適切な手法の選択など統計的な問題解決の方法を知ること。
社会	エ 産業と生活	知識及び技能	⑦我が国の食料生産は、自然条件を生かして営まれていることや、国民の食料を確保する重要な役割を果たしていることを理解すること・ ⑧食糧生産にかかわる人々は、生産性や品質を高めるよう努力したり輸送方法や販売方法を工夫したりして、良質な食料を消費地に届けるなど、食糧生産を支えていることを理解すること。
		思考力・判断力・表現力等	⑧生産物の種類や分布、生産量の変化などに着目して、食糧生産の概要を捉え、食糧生産が国民生活に果たす役割を考え、表現すること。 ⑨生産の工程、人々の協力関係、技術の向上、輸送、価格や費用などに着目して、食糧生産に関わる人々の工夫や努力を捉え、その働きを考え、表現すること。
道徳	A 自分自身に 関すること	希望と勇氣 努力と強い意志	・自分でやろうと決めた目標に向かって、強い意志をもち、粘り強くやり抜くこと。
	B 人との関わり に関すること	礼儀	・礼儀の意義を理解し、時と場に応じた適切な言動をとること。
	C 集団や社会 との関わり に関すること	勤労、公共の 精神	・働くことや社会に奉仕することの充実感を味わうとともに、その意義を理解し、公共のために役に立つことをすること。
	D 生命や自然、 崇高なもの との関わり に関すること	自然愛護	・自然の素晴らしさや不思議さを感じ取り、自然や動植物を大切にすること。

3 単元の目標

- (1) コーヒー豆の産地や生育環境、生産から加工、消費までの流れやブレンドコーヒーについて知り、全体の作業工程の中の自分の役割を理解して、ドリップバッグを作ることができる。(知識及び技能)
- (2) よりよいブレンドコーヒーを作る方法を購入する客の立場に立って考えたり、作業の見通しをもち、作業量を増やせるように工夫したりすることができる。(思考力、判断力、表現力等)
- (3) コーヒー豆の生産や加工の概要、人々の努力を知ることを通して、コーヒーを大切に扱おうとしたり、仲間と協力しながらコーヒーを開発したりしようとする。(学びに向かう力、人間性等)

単元の評価規準、単元の指導計画

R6 改訂版 学習指導案様式 各教科等を合わせた指導版(学部研究用)

4 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
コーヒー豆の産地や生育環境、生産から加工、消費までの流れやブレンドコーヒーについて知り、全体の作業工程の中の自分の役割を理解して、ドリップバッグを作っている。 扱う教科の評価規準 (職業) …それぞれの役割を理解し、道具や機械を安全に扱いながら流れに沿って作業している。 (職業) …コーヒーの学習を通して材料の生産や生育活動について理解している。 (国語) …アンケート結果からブレンドが選ばれた理由を理解している。 (数学) …ブレンドの比率について理解している。 (社会) …コーヒー豆の生産に関わる人々が、生産性や品質を高めるために様々な工夫や努力を行っていることが分かる。 (社会) …それぞれの土地や気候を生かしてコーヒー豆の生産がされていることが分かる。 (道徳) ・目標に向かって最後まで責任をもって作業しようとしている。 ・場に応じた適切な敬語を用いて話している。 ・働くことの充実感をもち、社会とのつながりに気付いている。 ・コーヒー豆の生産や人々の努力を知り、コーヒー豆を大切に扱おうとしている。	よりよいブレンドコーヒーを作る方法を購入する客の立場に立って考えたり、作業の見通しをもち、作業量を府や得るように工夫したりしている。 扱う教科の評価規準 (職業) …日誌の前回の反省点を確認し、作業量を増やせるように作業方法を工夫している。 (職業) …購入する客の立場に立ち、よりよいブレンドコーヒーを作るためのアンケート項目を考えている。 (国語) …敬語を用いて作業方法について聞いたり相談したりしている。 (国語) …Fishman Coffee さんに伝えることを意識して、アンケートの回答や集計結果から必要な情報を見付けている。 (社会) …コーヒー豆がどこでどのように生産されているかを知り、生産量が減ってきていることなどについて考えている。 (社会) …コーヒー豆の生産に関わる人々はどのように協力して生産しているのか、つながりを考えている。	コーヒー豆の生産や加工の概要、人々の努力を知ることを通して、コーヒーを大切に扱おうとしたり、仲間と協力しながらコーヒーを開発したりしようとする。 扱う教科の評価規準 (職業) …仲間と声を掛け合いながら作業しようとしている。 (職業) …日誌の反省点を確認し、気を付けることを意識しながら作業しようとする。 (国語) …豆の加工に関わる人の話の要点を聞き、話の内容を捉えようとしている。 (国語) …コーヒーの開発に向けてアンケートの結果を情報を整理しながらまとめ、書こうとしている。

5 単元の指導計画

時数	小単元	学習活動	扱う教科の内容
第1次 (3時間)	・Fishman Coffee さんからコーヒーについて学ぼう。	・外部講師からコーヒー豆の産地や生育環境、生産方法やコーヒー豆の生産に関わる人々の努力などについて話を聞く。	・職業イ職業 ・国語A聞くこと・話すことア ・社会エ産業と生活④ ・道徳D生命や自然、崇高なもののかかわりに関すること
第2次 (3時間)	・ブレンドコーヒーの「比率」について知ろう。	・比率について知る。 ・比率に応じた3種類のコーヒー豆の重さを調べる。	・数学C変化と関係 ウ二つの数量の関係に関わる事項⑦
第3次 (2時間)	・お客様に喜んでもらえるブレンドコーヒーにするためのアンケートを考えよう。	・アンケート項目を考える。 ・アンケートを作成する。	・職業ア勤労の意義 ・道徳B人との関わりに関すること
第4次 (17時間)	・3種類のブレンドコーヒーを作ろう。	・ブレンドの比率に応じた豆の重さを量り、焙煎済みの豆を混ぜる。 ・3種類の豆の比率を変えて作ったブレンドコーヒーを試作し、販売する。 ・アンケートを配付し、回収ボックスを設置する。	・職業ア勤労の意義 イ職業 ・国語ア言葉の特徴や使い方に関する事項(カ) ・道徳A自分自身に関すること B人との関わりに関すること C集団や社会のかかわりに関すること
第5次 (6時間) 本時1～3時間	・3種類のブレンドコーヒーから一番人気のあるブレンドとその理由を調べよう。	・アンケートを回収し、集計をとる。 ・アンケート内容をまとめる。	・職業ア勤労の意義 ・国語イ情報の扱い方に関する事項(ア) ・国語C読むこと ・数学Dデータの活用 アデータの収集とその分析に関わる事項⑧
第6次 (3時間)	・Fishman Coffee さんにブレンドのアンケート結果を伝えよう。	・アンケート結果やブレンドコーヒーが選ばれた理由を模造紙にまとめる。 ・模造紙にまとめることを、伝える練習をする。	・職業ア勤労の意義 イ職業 ・国語A聞くこと・話すこと B書くこと ・道徳B人との関わりに関すること
第7次 (6時間)	・ブレンドコーヒーを完成させよう。	・選ばれたブレンドコーヒーのドリップバッグを作り、Fishman Coffee さんに飲んでいただく準備をする。 ・プレゼンテーションをする。	・職業ア勤労の意義 イ職業 ・国語A聞くこと・話すことア ・道徳B人との関わりに関すること C集団や社会のかかわりに関すること

2025年3月

本時の指導（目標、生徒の様子と個別の目標）

6 本時の指導（29 時間目／全 40 時間）

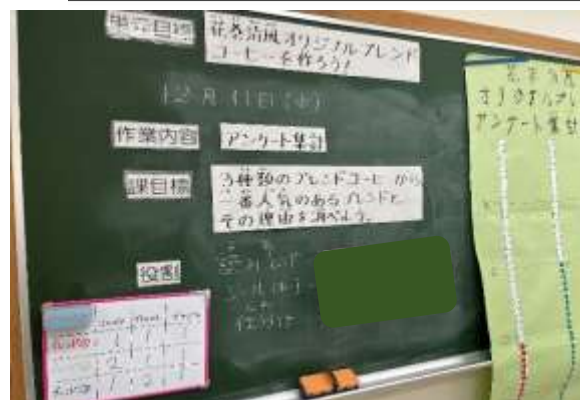
（1）目標

- ア 作業の流れが分かり、3 種類のブレンドの比率や一番人気のあるブレンドコーヒーを理解している。
 イ アンケートから必要な情報を取り出して調べ、一番人気のブレンドコーヒーの特徴や選ばれた理由を
 考えることができる。

（2）生徒の様子と個別の目標

	児童（生徒）の実態	本時の個別の目標	手立て	評価基準
A	- 産地の違う 3 種類の豆でブレンドコーヒーを作っていることが分かり、それぞれのブレンドの比率が分かっている。 - シールの数を見てどれが選ばれたのかを判断することができる。 - 自信のなさから意見を求めると発言することが難しいときがある。	- 作業の流れを理解し、ブレンドの比率や一番人気のブレンドが分かる。 - アンケートから必要な情報を見て、ブレンドが選ばれた理由を探し出すことができる。	- 選ばれたブレンドの票数をシールで貼りながら確認することで、一番人気のブレンドコーヒーが分かるようにする。 - 選ばれた理由が分かるように、項目を確認しながら集計する。	ブレンドの比率と一番人気のあるブレンドを答えたり記入したりしている。
B	- 産地の違う 3 種類の豆でブレンドコーヒーを作っていることが分かっている。 - シールの数を見てどれが選ばれたのかを判断することができる。 - 自信のなさから意見を求めると発言することが難しいときがある。	- 作業の流れを理解し、ブレンドの比率や一番人気のブレンドが分かる。 - アンケートから必要な情報を見て、ブレンドが選ばれた理由を探し出すことができる。	- 選ばれたブレンドの票数をシールで貼りながら確認することで、一番人気のブレンドコーヒーが分かるようにする。 - 選ばれた理由が分かるように、項目を確認しながら集計する。	- ブレンドの比率と一番人気のあるブレンドを記入している。 - アンケートを集計して、一番人気のブレンドが選ばれた理由を記入している。
C	- コーヒー豆の製造から消費までの流れや、3 種類のブレンドの比率や特徴について理解している。 - シールの数を見てどれが選ばれたのかを判断し、様々な情報と合わせて考えようとすることができる。 - 周りを見て作業し、作業の流れを考えながら作業することができる。	- 作業の流れを理解し、ブレンドの比率や一番人気のブレンドが分かる。 - アンケートから必要な情報を取り出し、ブレンドが選ばれた理由を様々な情報と合わせて考えることができる。	- 選ばれたブレンドの票数をシールで貼りながら確認することで、一番人気のブレンドコーヒーが分かるようにする。 - 選ばれた理由が分かるように、項目を確認しながら集計する。 - 様々な情報と合わせて考え、まとめることができるように学習プリントに例文を載せる。	- ブレンドの比率と一番人気のあるブレンドを答えたり記入したりしている。 - アンケートを集計し、一番人気のブレンドが選ばれた理由を複数の項目を合わせて記入している。

D	- 産地の違う 3 種類の豆でブレンドコーヒーを作っていることが分かる。 - シールの数を見てどちらが選ばれたのか判断することができる。 - 意見を求めると、友達 の意見を参考にしながら伝えることができる。	- 作業の流れが分かり、ブレンドの比率や一番人気のブレンドが分かる。 - 集計結果を見て一番人気のブレンドコーヒーが選ばれた理由を選択肢から選ぶことができる。	- 集計結果の単位グラフの高さに着目することで、一番人気のブレンドが分かるようにする。 - 選ばれた理由を調べるときに項目を照らし合わせながら確認する。	- ブレンドの比率と一番人気のあるブレンドを答えたり記入したりしている。 - 集計結果を見て一番人気のブレンドコーヒーが選ばれた理由を選択肢から選んでいる。
E	- 指示や作業中の声掛けがあると集中して作業することができる。 - 教師の声掛けで報告をすることができる。 - 基本オウム返しだが、同じやりとりを続けると自分の言葉で話すことができる。	- 作業の流れが分かり、ブレンドの比率や一番人気のブレンドが分かる。 - 集計結果を見て一番人気のブレンドコーヒーが選ばれた理由を教師と一緒に選ぶことができる。	- 作業内容を黒板に掲示しておく。 - 集計結果のシールの見た目の量や高さに着目させながら教師とやりとりをする。	- ブレンドの比率と一番人気のあるブレンドを記入している。 - 教師とのやり取りの中で選択肢からブレンドが選ばれた理由を選んでいる。
F	- 同じ流れの中で作業することで、集中して丁寧に自分の作業をすることができる。 - 自分の作業が終わると報告することができ、率先して取り組むことができる。 - 意見を求めると知っている単語を用いて自分の意見を話すことができる。	- 作業の流れが分かり、ブレンドの比率や一番人気のブレンドが分かる。 - 集計結果を見て一番人気のブレンドコーヒーが選ばれた理由を選択肢から選ぶことができる。	- 集計結果の単位グラフの高さに着目することで、一番人気のブレンドが分かるようにする。 - 選ばれた理由を調べるときに項目を照らし合わせながら確認する。	- ブレンドの比率と一番人気のあるブレンドを答えたり記入したりしている。 - 集計結果を見て一番人気のブレンドが選ばれた理由を選択肢から選んでいる。



(5) 授業研究会

よかった点

- ・ 生徒の思考の流れ、段階を踏んだ単元計画が設定されていた。
- ・ 自分事として考えられるような活動だった。
- ・ 各教科等を合わせた指導として、教科の目標を達成できる単元設定がされていた。
- ・ 製品を作るだけではなく、お客様側の視点を考察できる授業だった。
- ・ ブレンド、比率についての知識が身に付いていた。
- ・ 一人ひとりが役割をもっていた。
- ・ アンケート集計結果をグラフで表したことは、分かりやすかった。
- ・ 期待感をもたせる教師の声掛けがされていた。
- ・ 単元の中で知識、思考、判断がバランスよく組み込まれ、主体性や深い学びにつながっていた。

課題と改善案

- ・ 集計時のシールの色が分かりやすいとよい。
- ・ 生徒の座席位置は黒板が見やすいようにするとよい。
- ・ まとめは生徒の言葉で行うとよい。
- ・ これまでの学習の積み重ねを写真等を活用することにより可視化され、生徒の理解を深めたり、定着させたりすることにつながるのではないかな。

授業者より

日誌の記入の仕方・タイミングについて

- ・ 朝礼後に記入することで、理解が深まる。内容、作業課、実態に応じて日誌記入のタイミングや「日誌」を活用するのか「ワークシート」を活用するのか等変更してもよい。
- ・ 目的を明確化し、その授業でどんな力を付けるのかによって、日誌を効果的に活用する。



5 学部研究のまとめ

(1) 目的について

ア 成果

- ・今年度、重点として取り組んだ作業学習を研究としたことは取り組みやすくてよかった。
- ・生徒は、仲間同士のコミュニケーション、外部の企業との関わりの中で、職業意識や社会性の大切さに気付くことができた。

イ 課題

- ・育てたい力（付けたい力）を生徒と共有し、所属する課で生徒が学ぶ目的をしっかりとてることが重要である。
- ・生徒が次年度の課選択をする際に、担任との面談を丁寧に行うことで、「自己の将来とのつながりを見通す」ことにつなげていきたい。また、課の付けたい力を生徒と確認し、どのようなことに力を入れていくのか考える機会としたい。

(2) 研究実践について

ア 成果

- ・各課の付けたい力といった課の特性は異なるが、縦割りグループで作業学習の共通事項をそろえる取組をしたことは、同じ方向性で指導する土台として効果的であった。
- ・作業学習の授業づくりと改善を目指す目的として、4つの項目を挙げ、グループごとに具体的な改善案を出し、実践し、また改善を図るサイクルの進め方はよかった。
- ・4つの項目を検討し授業づくりをした結果、生徒が働く力を身に付けようと意識できる内容になった。

イ 課題

- ・グループでの検討後に、授業の中で試行する期間がもう少し長い方がより完成度が高まるため、今後も引き続き今回検討した4項目を振り返る機会をもつ必要がある。
- ・各課の具体的な単元目標、本時の目標の検討に取り組んでいく必要がある。

遠野分教室 小学部

1 共有した目指す姿

低学団

集団意識

- ・見通しをもってみんなと学習（行動）する。
- ・みんなと一緒に（に待つ）。（いつでも・どこでも・誰とでも）
- ・約束やきまりを受け入れる。

コミュニケーション

→ → → →

- ・だれにでも元気な挨拶をする。
- ・挨拶ができる。
- ・返事ができる。（指示）
- ・自分なりの方法で伝える。（笑顔・サイン・発声）

余暇

- ・好きな事、楽しみなことを見つける。

発展させて・・・

- ・感想発表では「楽しかった」「できた」だけでなく、プラスα言えるように。

高学団

見通し

- ・何をするのか分かって行動する。
- ・じっくり見る。（教師、友達の活動）

決まりが分かる

- ・約束やきまりを受け入れる。

自分から伝える

- ・自分から話す。「やる！」「もっと」「次」
- ・自分から話す。取り組む。
- ・自分の気持ち（やりたいこと）を伝える。

意欲

- ・「またやりたい」という気持ちをもつ。
- ・「やってみたい」「こうしてみよう」という気持ちをもつ。

2 研究の進め方

○学部全体で研究に取り組んだ。

- (1) 単元の検討（単元づくりシートを活用）
- (2) 単元の実施（評価・改善含む）
- (3) 研究授業・授業研究会の実施
- (4) 単元の評価
- (5) 学部研のまとめ

3 研究授業の紹介

指導形態：生活単元学習・自立活動

対 象 ： 3 年生 4 名

5 年生 2 名

6 年生 2 名（自立活動 1 名）

単元名 ： さつまいもパーティーをひらこう

扱う各教科等：生活科、国語科、算数科、自立活動

単元の授業紹介

～収穫～



～パーティーについて考えよう～



～買い物～



～振り返り～



～さつまいもまつりをひらこう～



研究授業の紹介～パーティーについて考えよう～



自分の経験（祭りを見に行ったこと）からの発言



「パーティー」という言葉を聞き、誕生会など今までの経験から出た発言



座席の工夫

半円になって座ることで、ＴＩだけでなく、友達の見えもしっかりと聞くことができた。学年混合で新鮮だったことから、どの児童も集中して話を聞くことができた。

「さつまいもまつりをひらこう」

- ・ おみこし作り
 - ・ 調理活動
- 児童の意見を取り入れた活動

本時の授業紹介～パーティーについて考えよう～

試食をし、さつまいもまつりで作るおやつを決める。



- ・試食は食べたいものを決めるために良い手立てだった。
- ・試食を通して、パーティー（まつり）で「食べる」ということを実感できた。
- ・おやつの写真カードがあることで、どの児童も好きなおやつを選び発表することができた。

4 まとめ

【成果】

指導形態について

【指導者にとって】

- 学部全体で取り組んだことで、児童の実態や支援など児童について職員全員で共有しながら進めることができた。
- 主担当をおきながらも学部全体で取り組むことで、広い視野で目標の設定や評価ができ良かった。
- 単元シートをもとに児童の目指す姿や手立てなどを話し合い、授業に臨み、授業の後には、児童の様子を話題にして、その都度職員で振り返ることができ良かった。

4 まとめ

【成果】

指導形態について

【児童にとって】

- 学部全体で取り組むことにより、縦割りグループが児童にとって良い刺激となり、思考や経験の拡大などの成果を出すことができた。
- 単元を通して、5・6年生と活動できる授業は3年生にとって刺激となる良い機会だった。（話し合い、買い物で友達と協力して材料を探し購入する、みんなで「まつり(パーティー)」を楽しむなど)

4 まとめ

【成果】

目指す姿について

- 児童の主体的に取り組む姿が多くみられる単元となり良かった。
- 収穫を振り返り、その後の活用について指導者の支援を受けながら「いもまつりをしたい！」「みこしを担ぎたい！」「作って食べたい！」など、主体的に意見が出てきたので良かった。

感想など

- 畑の単元のまとめとして次年度以降も継続して良い内容となった。今年度の研究をさらに深めることができるよう、次年度も継続して取り組んで良いと思う。
- さつまいもは毎年植えているので、次年度にも生かせる単元となり良かった。

4 まとめ

【課題】

- 単元のＴＩとは別に小単元や活動ごとに担当を変え、色々な発想や雰囲気での授業づくりができるとうり良い。
- 授業の動画から、児童の何気ないつぶやきや表情の変化に気づくこともあった。そのような反応を見逃さず授業に反映させたい。
- 研究授業として、２年間生単を扱っているので次年度は違うものに取り組むのも良いと思う。

遠野分教室 中学部

1 研究内容

『 併設支援学級との交流について 』

(1) 遠野中学校全体との交流

儀式的行事（入学式、始業式など）

体育的・文化的行事（運動会や予餞会など）

生徒会活動への参加（生徒総会、休み前・明け集会など）

(2) 学年での交流

1 学年 郷土料理作り（けいらん）和楽器体験（お琴）

2 学年 郷土料理作り（ひつつみ汁）

3 学年 郷土料理作り（ひなまんじゅう）

(3) 支援学級との交流

朝の体力づくりで週に2回のランニング

支援学級の担当者が毎年のように変わり、支援学級の指導内容が引き継がれていない状況

- ⇒ ・ 年間の指導内容についての情報交換
- ・ 相互の授業見学
- ・ 生徒の経験の拡大を図るための機会をどのように設定できるかを検討

2 研究の方法

- (1) 併設校支援学級と分教室との情報交換
- (2) 交流事業の実践
- (3) 実践内容についての検討
- (4) 学部研究のまとめ

3 研究の経過

4月	遠野分教室中学部研究について ・テーマ・研究内容について検討 ・生徒の目指す姿について確認 授業実践① 「ランニング」（日常生活の指導）
5月	授業実践② 「大切な体」（保健体育）
6月	学習会「資料回覧」 ・各教科等を合わせた指導について・・・学習指導要領から ・主体的で対話的で深い学びの視点からの授業改善・・・文部科学省資料から ・花巻清風支援学校キャリア教育全体計画・・・令和3年度改定版 ・受け持つ児童の主体的な姿・・・令和3年度研究資料
7月	授業実践③ 「大切な体を守るために」（保健体育） 授業実践④ 「下駄箱の清掃」（作業学習）
9月	遠野中学校特別支援学級について ・支援学級の構成と在籍生徒数について ・教育課程について
10月	実践内容についての協議
11月	研究のまとめ

4 研究実践

(1) 併設校支援学級と分教室との情報交換

- ・遠野中学校の支援学級では生徒の理解度や進路に合わせ、保護者と確認しながら適切な学習内容や学習の場を設定している
- ・教科学習中心の教育課程、合わせた指導は「生活」2時間「自立活動」3時間
- ・交流学級での学習、支援学級単独での学習がある
- ・支援学級の生徒は、交流学級の生徒と関わることができている生徒もあれば、交流学級には入れない生徒もあるなど多様な実態があり指導の難しさがある状況

(2) 授業実践

ア 授業実践の内容

①ランニング（日常生活の指導）

日 時	内 容
毎週火、金曜日 1 校時	・ 遠野中学校体育館、多目的ホールで 10分間 ・ 始まりと終わりの挨拶は分教室生徒、 準備体操は遠野中の支援学級生徒が行う。



準備体操

2025年3月



ランニング

116

②下駄箱清掃（作業学習）

日 時	内 容
7月16日（火） 17日（水） 3・4校時	遠野中学校生徒玄関の下駄箱掃除 （掃き、拭き、新聞紙替え）
12月16日（月） 17日（火） 3・4校時	



下駄箱はき掃除

2025年3月



トレイふき

118

③大切な体（保健体育）

日 時	内 容
5月29日（水） 5校時	遠野中学校教諭による講話 女子のみ ・人間の体の器官の役割 ・個による体や心の発達の違い ・女性特有の器官を大切にすること



「大切な体」 学習の様子

④大切な体を守るために（保健体育）

日 時	内 容
7 月11日（木） 5 校時	遠野中学校教諭による講話 男女合同 ・ 職員の妊娠時の体験談 ・ TVドラマ「コウノドリ」命の大切さ、 ・ 中1 道徳の教科書より「あなたに」の読み聞かせ



「大切な体を守るために」 学習の様子

(3) 成果と課題

ア 成果

- ・ランニングやほかの交流活動全体をとおして、お互いの名前や顔を知ることができ、生徒、職員ともに徐々に交流が生まれ、生徒の様子を知ってもらうことができた。
- ・清掃では、分教室の「作業学習」としての取り組みや生徒が時間いっぱい作業している様子を見てもらうことができた。
- ・保健体育の学習では、積極的な発言があったり、興味をもって話を聞くことができたりした生徒もあった。家庭で「生まれてくること」「性」について話題にするきっかけとなった。

イ 課題

- ・ランニングでは周回数を共通でカウントしていないので高め合いまでは発展することができていない。また、曜日ごとに担当の先生が違うため、進め方の確認が必要であった。
- ・清掃では、今年度になり中学校の担当者が変わり、進め方が引き継がれていなかった。事前に作業の進め方、割りふりなどの情報共有が行われればよかった。
- ・保健体育については発達段階の違いにより理解の難しさが残った生徒があり、恐怖感につながる生徒もあった。

5 学部研究のまとめ

(1) 中学校の様々な状況から朝のランニングは交流の場として取り組みやすい時間帯であり、内容である

→ランニングの周回数を共通でカウント
記録会を設定したりすること
簡易ルールで行うフットベースなどのスポーツや
ニュースポーツなどゲーム性の高い内容について検討

(2) 保健体育の内容は、知識としては必要な内容であったが、生徒の実態によっては理解の難しさがあった。

→教科の学習では、特に事前の学習内容のすり合わせ
事後のフォローが必要

(3) 共同の作業学習

分教室としては取り組みやすい活動



支援学級の生徒たちにとっては活動の目的や意義を理解できていない

- ・ 生徒の実態についての情報共有
- ・ 目的、指導内容、生徒の役割分担、グルーピングなどについての打ち合わせを十分に行う

(4) 遠野分教室の生徒は少人数での生活で集団での活動経験が少なく他者との関わりも限定的、固定的

→地域の仲間と活動を共にし、関わりを広げていくことで自己の役割を認識したり、他者との関わり方やその楽しさを知るなど様々な経験を積むことができる

今後の取り組み

- ・ 分教室側からも積極的に交流活動の発信
- ・ 学年交流で参観または一緒に活動を設定
- ・ 特別支援合同レクリエーションへの参加について検討

将来的には遠野という地域で生活していく
生徒たちが、より豊かな生活や人間関係を
築くことができるような交流活動を今後も
実践していく。

北上みなみ分教室 小学部

1 共有した目指す姿

『自分がやるべきことを自分でやろうとする姿』

- ・「自分がやるべきことを理解して取り組む」、「児童の実態に応じて選択肢を提示し、自己決定して活動する」という経験を積み重ねていくことで、自立と社会参加につながると考えた。
- ・社会参加のために、児童がやらなければいけないことを明確化して提示し、自分のことは自分で取り組めるようにする。

2 研究の方法

- ・ 分教室全体で研究を行った。
 - (1) 単元シートの活用
 - (2) 研究授業の実施
 - (3) 授業研究会の実践
 - (4) 学部研究のまとめ

3 研究授業の紹介

『生活単元学習「ベンチを塗装しよう」(地域貢献活動)』

阿部塗装工業の方とあい南の生徒と協力して、陸上競技場前の木製ベンチを塗装した。阿部塗装の方に、道具の使い方や塗り方を教えてもらい取り組んだ。塗装後には、阿部塗装工業や北上市スポーツ協会の方に「ありがとう」と言われ、「褒められた」「喜んでもらえた」と感じる事ができた。地域の役に立つ経験をすることができた。

扱った各教科等：生活科、国語科、図工科



2025年3月



134



2025年3月



135



2025年3月



136



2025年3月



137



4 まとめ

【成果】

- ・ 自立と社会参加はキャリア教育と関連があることから、キャリア発達支援についても理解を深め、キャリア教育の視点からも研究を進めることができて良かった。
- ・ 自分達や地域のみんなが使う身近な場所のベンチを塗装したことは、子供達にとって良い活動だった。社会参加・社会貢献という観点から見ても、良い単元だった。
- ・ 阿部塗装さんや北上市体育協会の方から称賛や感謝の言葉もらい、「役に立った」「喜んでもらえた」と感じる経験ができて良かった。

【課題】

- 児童の目指す姿について全職員で共有することができたが、成果や課題を次の授業や単元に生かす点が不十分だった。今後は、この点を意識して授業づくりと授業改善に努めていく。
- 児童が教師や友達のために自分ができることを行い、それが人の役に立ち感謝されることにつながる経験や活動を増やしていきたい。また、児童が他の人のためになる行動をしたら、常に教師はいっぱい褒めたり、感謝の気持ちを伝えたりしていく。
- 塗装したベンチを地域の方々が利用している様子や感謝している様子を、児童が見たり感じたりすることができると良い。
- 地域の方や運動公園の利用者にもっとベンチ塗装の活動について知ってほしいので、様々な所で情報発信できたら良い。

北上みなみ分教室 中学部



1 共有した目指す姿

○北み分中経営計画における目標

- (1) 健康で丈夫な体づくりに努め、自分と仲間を大切にする生徒
- (2) 充実感や達成感をもち、生き生きと活動する生徒
- (3) 社会生活に必要な決まりやルールを守り、主体的に行動する生徒
- (4) 南中学校との交流や地域との協働を通じて、自らの役割に力を発揮する生徒

【作業学習において目指す姿】

- ・「お客様に喜んでもらう製品を作る！」
- ・ 順番を守って並ぶ。
- ・ 自分から準備して、作業を始める。
- ・ 「南中販売会」で販売活動をする。
- ・ 自分の役割に集中して取り組む。

○キャリア教育全体計画におけるキャリア発達能力の目標（中学部）一部抜粋

- ・ 自分の行った学習や活動の良かったところ、直すべきところ等を振り返る。
- ・ あいさつや返事をする。

- ・ 日誌で本時の活動を振り返り、自ら次時の目標を考える。
- ・ 挨拶、返事 ⇒ 相手の顔を見て話す。

2 北み分中の生徒および作業学習について

(1)生徒

北み分中 生徒	1 年	2 年	3 年
知的通常（4 名）	3 名	0 名	1 名
重複障害（2 名）	2 名	0 名	0 名

(2)作業学習「紙工班」油取りパック作り

	工程	活動内容
①	袋詰め	シュレッダーをかけた新聞紙を、だしパックに詰める。
②	梱包	油取りパック 6 個とラベルを袋に入れる。



①袋詰め



②梱包

2 北み分中の生徒および作業学習について

(3)新たな取り組み

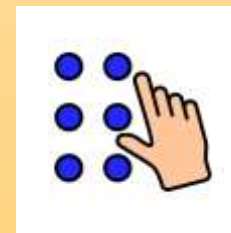
【中身の変容】牛乳パックをちぎってミキサーがけしたもの ⇒ シュレッダーをかけた新聞紙

【補助具】 ペットボトルを利用した補助具



使用の様子

【できた個数の数え方】
数え棒 ⇒ シール



(4)作業製品の販売の機会

時期	販売先等
9月	南中（職員）販売会
11月	トヨタ紡織サンシャインアリーナ（北上総合体育館）で委託販売 （トヨタ紡織東北、サンシャインラビッツとのコラボ商品として）
11月	保護者販売会
12月	南中（職員）販売会 ※研究単位



コラボ商品

3 研究授業の紹介

単元名「南中販売会を成功させよう！」

経営計画の目標

(2) 充実感や達成感をもち、
生き生きと活動する生徒

(1)授業づくりのポイント

①振り返り・目標設定

前時の振り返りから
本時の目標を設定



キャリア発達能力の目標
(総合生活力・確かな学力)

②全員が自分から準備し、 作業を自発的にスタート する

③順番を守る



経営計画の目標

(3) 社会生活に必要な決
まりやルールを守り、主体
的に行動する生徒

3 研究授業の紹介

単元名「南中販売会を成功させよう！」

(2)本時の目標について

- ア 自分の担当する作業の準備・後片付け、活動内容、作業工程、道具や材料の使い方が分かり、
丁寧な作業に取り組むことができる。 (知識及び技能)
- イ 製品の仕上がりを確認したり、報告したりすることができる。 (思考力、判断力、表現力等)
- ウ 販売会に向けてお客様に喜んでもらう製品を作るということを意識し、目標数を達成できるように意欲的に取り組む。 (学びに向かう力、人間性等)

扱った各教科等：職業・家庭科、国語科、数学科（算数科）、美術科

3 研究授業の紹介

単元名「南中販売会を成功させよう！」

(3)協議の柱について

◆研究会で意見をいただきたいこと、授業で特に見てもらいたいポイント

- ① (全員) 作業を自発的にスタートしていたか。(自分からかごを準備するなど)
- ② (F) 困ったときにすぐに教師に報告していたか。
- ③ (A, E) 報告の仕方は適切であったか。(報告時の動線、待機の仕方、顔を見て報告) するための支援や補助具について。
- ④ (B) 袋詰めから報告まで、一人でできていたか。目標数を意識して取り組むための支援 (プリントや声がけ) について。
- ⑤ (D) 最後まで多目的室でみんなと一緒に落ち着いて作業に取り組んでいたか。そのための配置等について。
- ⑥ (C) タイマーを意識してスピードアップできたか。

3 研究授業の紹介

単元名「南中販売会を成功させよう！」

(4)授業の様子



朝礼後、自分から準備



困ったときにすぐに報告



顔を向けて報告

3 研究授業の紹介

単元名「南中販売会を成功させよう！」

(5)授業研究会について

◆協議の柱

- ①作業を自発的にスタートしていたか。
- ②困ったときにすぐに教師に報告していたか。
- ③報告の仕方は適切であったか。
- ④袋詰めから報告まで、一人でできていたか。
目標数を意識して取り組むための支援について。
- ⑤最後まで多目的室でみんなと一緒に落ち着いて作業に取り組んでいたか。そのための配置等について。
- ⑥タイマーを意識してスピードアップできたか。

授業研で振り返り

- ①全員、自分からかごを準備することができた。
- ②材料がなくなったとき、すぐに教師に報告することができていた。
- ③大きな声で報告ができた。順番に並ぶよう印をつけていて、追い越さず待つことができた。
- ④おおむね、一人で作業ができていた。目標数を教師と一緒に確認できた。
- ⑤前半はみんなと一緒に落ち着いて作業することができた。
- ⑥タイマーを意識することは難しかったが、作業スピードは遅くなかった。

3 研究授業の紹介

単元名「南中販売会を成功させよう！」

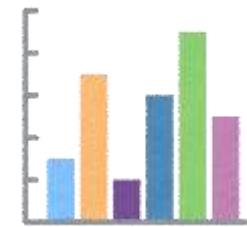
(5)授業研究会について

◆その他、話題になったこと

- ・南中学校の先生から感想をいただき、客観的に授業がどう見えたのか知ることができてありがたかった。

- ・提示の仕方や環境について

- ⇒全体の出来高表の工夫（棒グラフにするなど）



- ⇒目標数の達成に重点を置くか、友達の活動から良い刺激をもらうかによって、机の配置を再検討してもよい。（主体的な学びへ）

- ⇒班長が終礼で作業学習の振り返りをするにより、生徒同士の共同的で対話的な学びにつながる。そのための教師の支援や工夫が必要。

- ・目標の再検討

- ⇒作業内容や個人目標を現在の姿と照らし合わせて再検討が必要。



4 今年度の学部研究のまとめ

(1) 成果

・ 目指す姿を共有する機会を設けた。

⇒分教室として育てたい力を確認することができた。

・ 全職員が授業にかかわっている作業学習を取り上げた。

⇒他の授業や生活場面でも、身に付けたい力が職員間で共有しやすかった。

(順番を守る、話している人に顔を向けるなど)

⇒より具体的で実践的な話し合いができ、授業改善につながる。

・ 研究会で、動画を視聴しながら客観的に振り返った。

⇒より実態把握につながり、「身に付けたい力」が明らかになる。

・ 併設校（北上市立南中学校）職員も研究授業を参観し、感想をいただいた。

⇒生徒理解、指導についての相互理解が深まった。今後も共により良い授業を目指す関係を築いていきたい。

4 今年度の学部研究のまとめ

(2) 課題

- ・今年度は生徒の変容に合わせて、作業内容や補助具、環境設定などを中心に検討を重ねてきたが、作業日誌の見直しまでできなかった。
- ・生徒自身のレベルアップに合わせた目標の吟味ができると良かった。

(3) 今後に向けて

- ・学習指導要領のさらなる理解。
- ・主体的に学習するための、よりよい環境調整。
- ・授業の深化・充実のための、生徒の実態把握や作業日誌の見直し。



寄宿舎

「一人ひとりの伸ばしたい力を明らかにした生活支援の充実」

1 仮説

寄宿舎生の実態把握をもとに、伸ばしたい力を明らかにし、組織的支援を行うことで、職員の資質向上と支援の充実につながるであろう。

2 設定理由

寄宿舎は舎生一人ひとりの障がい、特性の理解や、計画的組織的な取組を図るために個別の生活支援計画へ、自活や三観点を取り入れたP D C A協議を行い、舎生の指導を図っているところである。

しかし、三観点や6区分の取入れに慣れない様子や、手立てが具体化できず共有が不十分となることがあった。また職員の異動への対応も必要になることから、寄宿舎全体の課題改善を行うことが、よりよい支援につながると考え、取り組むことにした。

3 研究実践

(1) 『舎内の調査研究』

- ア 目的：寄宿舍で行っている支援の仕組みの現状調査。課題や取り組みを明らかにする。
- イ 内容：舎内アンケートを実施。個別の生活支援や棟討議の際に必要なことや課題等の意識調査。

ウ 見えてきたこと：

- (ア) 質問回答に「できなかった・難しい」という選択が多かった。寄宿舎生と関わる期間が長くなればなるほど、支援等について迷ったり苦慮している様子が見られた。
- (イ) 自ら配付した人は少なかったが、「発言が増え」「本題に沿って協議できた」ことに役立ったことから、事前配付は必要であると考え
る。
- (ウ) 「見立てに自信がない」と回答した職員が半数以上を占めていた。
- (エ) 「主体的な姿を育むために必要な職員の力」「継続できるための仕組みに必要なこと」として、実態把握の活用、棟内の討議・情報共有を充実させていく必要がある。
- (オ) 棟討議の時間確保が難しい・終了時間を決めなかった・予定された時刻に終わられなかったという実態があった。

3 研究実践

(2) 『ルールを活用した棟討議』

ア 目的：職員間の円滑な協議

イ 内容：ルール決めと棟討議の実践

ウ 提案したルール：

- ① 検討会を行う日時の予告
- ② 終了時刻を予告
- ③ 司会者と記録者を決める
- ④ 発言がない場合は、司会者が指名する
- ⑤ 決定事項と持ち越しの内容の確認（誰がいつまでに等）
- ⑥ 記録を欠席者に回覧し、周知を図る

3 研究実践

(3) 『棟交流会』

ア 目的：主体的な姿を育むための職員の姿勢の共有

イ 内容：各棟の事例検討会を他の生活棟が見学する交流会

ウ 成果

(ア) 棟討議の際、舎生の様子を具体的に伝えることを心掛けるようになった。

(イ) 棟討議の決定事項は一つ一つ行うことが大切と捉え直すことができた。

(ウ) 棟討議における不安解消のためにも、時間をかけて話し合おうとする姿勢が増えた。

(エ) 観点がずれても発見に努めるようになった。

エ 課題

- (ア) 棟討議の進め方についての共有や資質向上を狙っていたが、討議事例の質問に偏った。
- (イ) 棟討議のルールに基づき進行したが、ルール④⑤について司会者の進行が曖昧になることが多かった。

3 研究実践

(4) 『学習会』

ア 目的：職員の知識の向上

イ 内容：事前の自主学習を基にした舎内学習会PDCAについての自主学習会

ウ 成果

(ア) P D C A の作成を通じて、記載した取り組みを振り返り、気付くことが多かった。

(イ) 発表者の資料が分かり易くまとめてあり、当日の発表や意見交換を通して、より分かるようになった。

(ウ) 意見交換を通じ、後期の自身の取り組みに活かすことができた。

(エ) 自主学習形式は学ぶことが多く、効果的だった。

(オ) アクティブラーニングは職員にも必要だと実感した。

エ 課題

- (ア) 基礎的なことを十分に捉えられていないケースも散見された。
- (イ) P D C A を使いこなすことや効率化が難しい。

4 まとめ

- (1) 学習会を通じて6区分やP D C Aサイクルの理解を深め、実態把握の棟共有や円滑な棟討議に役立った。「特性や実態を基にした職員間の円滑な協議を図る」ことができたが、P D C Aの効率化等が課題として挙げられており、慣れていくことが必要と確認された。
- (2) P D C Aを通じ、舎生の実態把握に追記することが増え、「継続できるための仕組化」に近づけられた。
- (3) アンケートを通し、課題や強みについて再認識し、前向きに捉えることにつながり、「主体的な姿を育むために必要な職員の姿勢を共有する」ことができた。

5 次年度に向けて

- (1) 見立てや支援に迷う職員が多いため、アンケートを通し、学習会を行い実践につなげる。
- (2) P D C Aサイクルの取り組みの理解が進んだが、継続するための仕組化として必要なことを整理する。
- (3) 意見交換が活発になったことで更に時間を要するため、棟討議ルールの活用や司会方法の共有を行う。
- (4) 研修会の際、会の目的が達成できるように、当日に目的の確認を行う。

4 全校研究のまとめ、次年度へ向けて

- (1) 主な成果
- (2) 主な課題
- (3) 次年度へ向けて

(1) 主な成果

- ・ 目指す姿の共有 ⇒ 授業づくりの方向性
- ・ グループ内授業研で意見交換、情報共有 ⇒ 授業改善
- ・ 学習の内容 ⇒ 毎年同じ内容に取り組むことで、
授業改善の積み重ね
地域とつながる活動
社会参加へつながる学習
「誰かの役に立つ」経験
- ・ 動画視聴による授業研究会 ⇒ 客観的な実態把握から
「身に付けた力」が明らかに
他の授業を知る機会の増加

(2) 主な課題

- ・ 学習指導要領のさらなる理解
- ・ 授業の深化・充実に向けた児童生徒の実態把握
- ・ 学習指導略案の様式、授業研究会の持ち方の工夫により「目指す具体的な姿」をより意識した授業づくりへ
- ・ グループ編成の工夫で、さらに指導者の学び合いを深める
- ・ 研究協議結果を次の授業に生かすこと
- ・ 他教科や生活場面へのつながりの意識
- ・ 学習活動に対しての地域の方の反応を知る機会をつくっていく
- ・ 学習の積み重ねによる発展的な目標設定
- ・ 育てたい力(付けたい力)を生徒と共有
- ・ 動画視聴で気付いた児童生徒の何気ないつぶやきや表情を次時に反映
- ・ 扱った授業や学習形態の工夫 ⇒ 共有・学び合い
学習内容の発展性を明らかに

(3) 次年度へ向けて - 1

ア 学部・分教室において

<今年度内>

成果や課題をカリキュラムマネジメントに生かす

⇒次年度の年間指導計画に反映する

- ・ 目標
- ・ 学習活動内容
- ・ 各教科等内において
- ・ 各教科等横断的な視点で

(3) 次年度へ向けて-2

イ 全校研究において

次年度（2年次め）も**各教科等を合わせた指導**を取り上げ、さらなる**授業の深化・改善**を図っていく。

扱う学習形態	…	継続	⇒	深化・改善
		変更	⇒	広がり・改善

- ・ 具体的な**目指す姿の共有**
- ・ 対象とする「各教科等を合わせた指導」の決定
- ・ **単元、授業づくり、研究授業の実施**→**お互いの授業を見る機会**を設ける
- ・ **授業研究会の実施**
- ・ **成果や課題を次の授業や単元に生かす（授業改善）** → **目標設定、指導内容の工夫、発展性**
- ・ 学習したことが他の授業や生活場面で活かされていることも評価として記録
- ・ **学部での情報共有**
- ・ **カリキュラムマネジメントへ**

＊ 学部の実態に合わせ、成果・課題を生かしていく